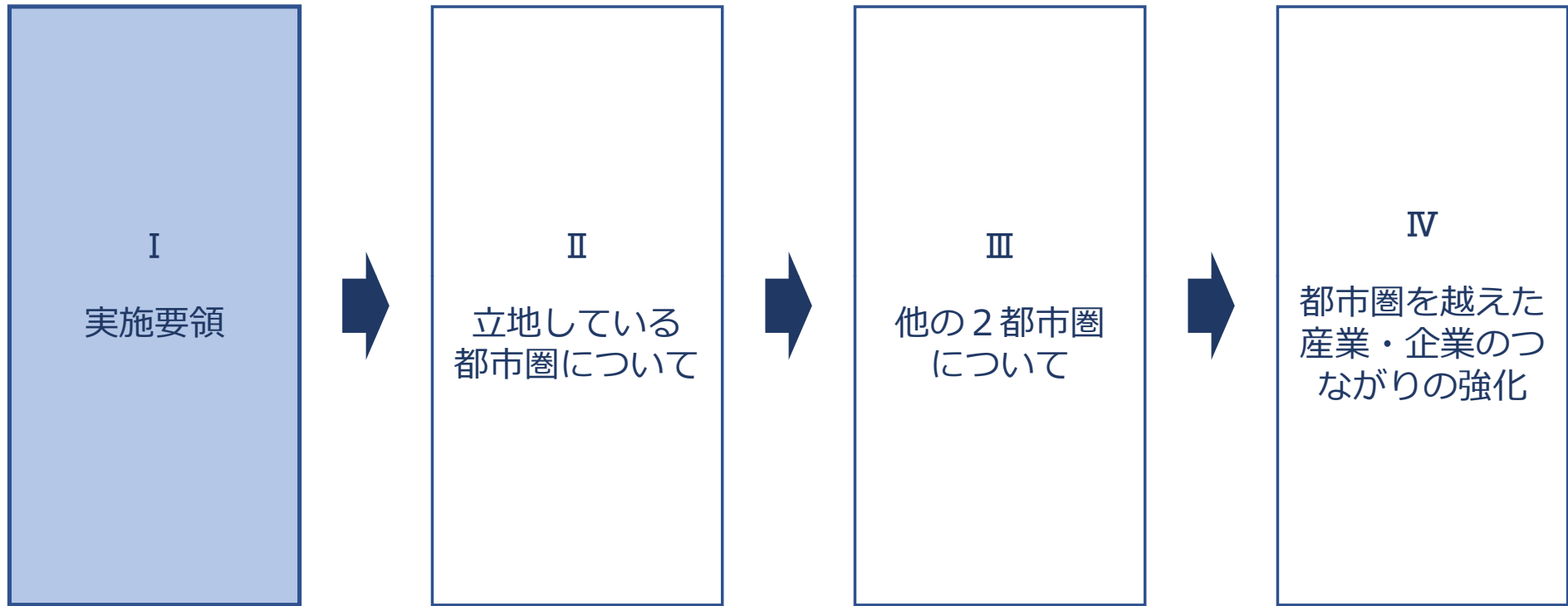

岡山・倉敷・福山圏域における 都市圏並びに都市圏間のネットワーク形成に関する調査

－ 調査結果 －

平成30年3月30日

一般社団法人中国経済連合会



調査の背景と目的

■ 中国地域で進む都市圏形成の取り組み

- 中国地域では、各地で連携中枢都市圏の形成など市町村を越えた都市圏形成の取り組みが進展。
- このことは人口減少が進む中国地域で、自立的な都市圏形成を進め、個々の市町村の持続性強化を図る観点から、大きな意義。
- 各都市圏は異なる社会経済特性を有し人口規模にも差異がある一方、共通課題も存在。機能の相互利用、都市圏を越えた経済取引や企業・住民の交流等を図るうえで、都市圏間ネットワーク形成は立地都市圏の役割を補完。
- 都市圏間ネットワークの形成は、都市圏の形成を軸に中国地域の自立性・持続性を高めることにつながる期待も。

■ 岡山都市圏～倉敷都市圏～福山都市圏の状況

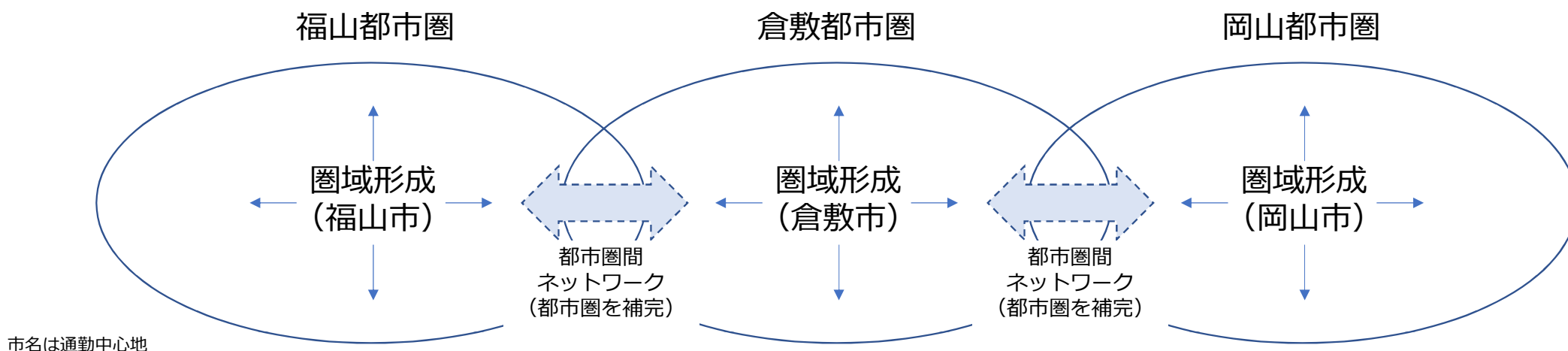
- 岡山都市圏（人口約116万人）から、倉敷都市圏（同76万人）、福山都市圏（同84万人）に至る地域は、人口規模が比較的近い都市圏が連なる。
- 一方で産業構造等に異なる特性を有する連携中枢都市圏が連担するエリアであり、対等で相互にメリットがある都市圏間ネットワークの形成が期待。
- 都市圏間を結ぶ交通基盤等に課題を指摘する声や、過去の経緯等から都市圏間の連携意識は必ずしも高くないという地元の声も。

■ 調査の目的

- 本調査では、岡山都市圏・倉敷都市圏・福山都市圏（5頁参照）を対象地域として、住民よりも広域的に活動する地域企業を対象に、企業の取引・交流等の実態、都市圏や都市圏間ネットワークの形成に関わる意識を把握・分析。
- 同エリアにおける都市圏間ネットワークの形成促進につながる切り口を探るとともに、企業にとっての都市圏間ネットワークの形成を促進する必要性や可能性を明確化する。

問題意識とアプローチ

図1 都市圏の形成と都市間ネットワークの位置づけ



(問題意識)

- ①そもそも企業にとって都市圏という地域範囲の設定に意味があるのか
→事業所に対してアンケート調査を実施し、**各都市圏の地域範囲を提示して**企業活動の結びつきの実態、地域の一体性・つながりの強さに関する企業意識、都市圏形成への期待や問題点等を探る。
- ②上の問題意識に答えを得たうえで、企業活動の実態や地域意識から、**都市圏間ネットワークについて都市圏を補完する役割を抽出**できないか
- ③都市圏形成や都市圏間ネットワーク形成の観点から**地域課題の抽出や必要な方策**を把握することができないか（交通基盤整備、都市機能の相互利用、多面的な交流等）



事業所アンケート調査（都市圏の形成と企業の経営および意識に関する調査）の実施

調査の実施要領

| 項目 | I 岡山都市圏調査 | II 倉敷都市圏調査 | III 福山都市圏調査 |
|-------|---|--|--|
| ①調査名称 | 都市圏の形成と企業の経営および意識に関する調査 | | |
| ②調査対象 | <ul style="list-style-type: none"> 岡山商工会議所、玉野商工会議所、備前商工会議所からの事業所名簿の提供 | <ul style="list-style-type: none"> 各種の企業年鑑・商工名鑑や過去のアンケート回答事業所の名簿等から作成 | <ul style="list-style-type: none"> 各種の企業年鑑・商工名鑑や過去のアンケート回答事業所の名簿等から作成 |
| ③調査方法 | <ul style="list-style-type: none"> 郵便送付、郵便回収 葉書により礼状を兼ねた督促一回 岡山県商工会議所連合会を通じた調査実施の周知 | | |
| ④調査内容 | <ul style="list-style-type: none"> 事業所が立地する都市圏の企業間取引・連携、立地環境の評価、地域に対する意識（地域への貢献や課題への関心等） 他の都市圏に対する企業間取引・立地環境の評価、地域に対する意識 都市圏内の産業・企業とのつながりを強化する取り組みへの意向 他の都市圏の産業・企業とのつながりの強化への意向 他の都市圏の産業・企業とのつながりを強化する上での問題点 他の都市圏の産業・企業とのつながりを強化するために必要なこと 売上高、生産性、新技術・新事業への取り組みの推移 事業所と関係がある企業、大学等の立地地域 事業所が立地する都市圏に対する地元意識（開放性・排他性）の評価、他の都市圏における地元意識の評価 | | |
| ⑤実施期間 | 平成29年10月16日～平成29年10月30日 | 平成29年10月17日～平成29年10月31日 | 平成29年10月19日～平成29年11月2日 |

調査の対象地域と都市圏の区分

図2 調査対象とする都市圏



調査の実施結果

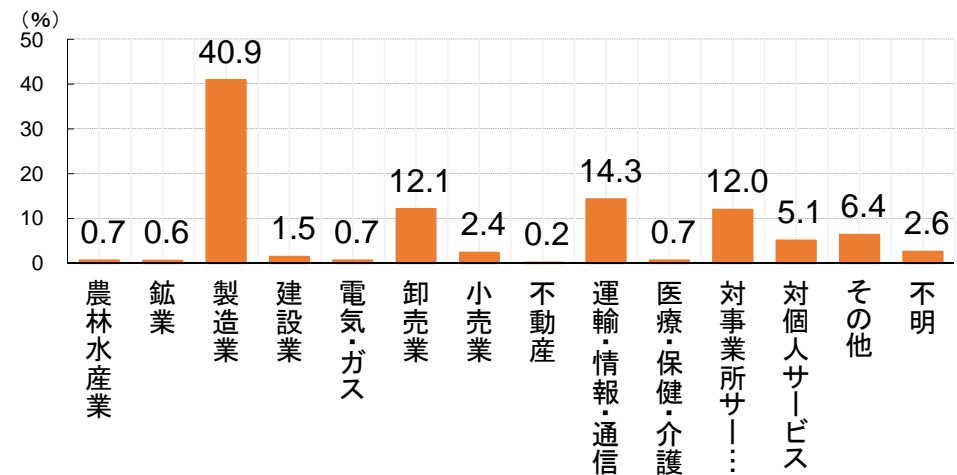
- **回収率は3都市圏の合計で22.3%**。都市圏で大きな差はみられないものの、福山都市圏の回収率が24.7%と最も高い。
- 本調査では、立地する都市圏を越えて圏域外にも市場を有すると想定される産業を主たる調査対象とした。これらの産業は、「**圏域外から稼ぐ力**」を持つ各都市圏の**基幹産業**であり、**地域経済を域外市場と結びつける「コネクター企業」**を多く含むと考えられる。
- 回答事業所の産業構成を3圏域の合計で見ると、「**製造業**」が最も多く40.9%を占める。この他では「**運輸・情報・通信**」が14.3%、「**卸売業**」が12.1%、「**対事業所サービス**」が12.0%と回答が多い。

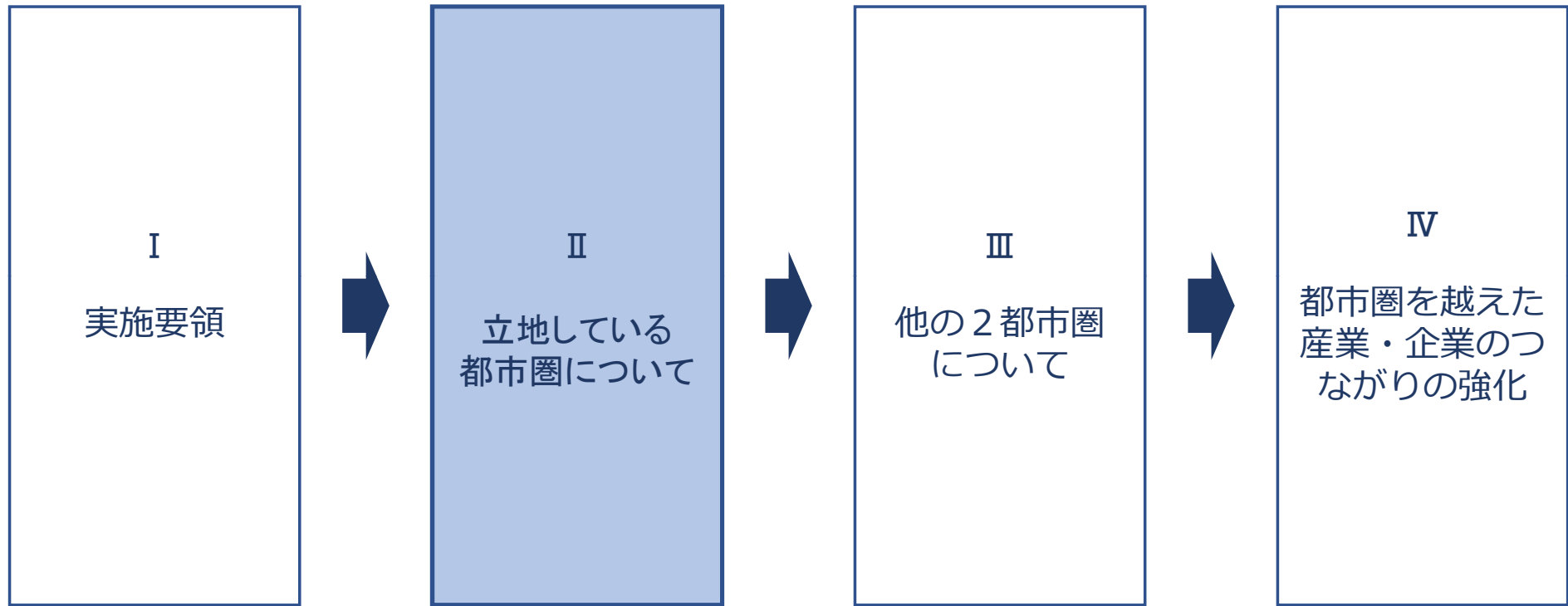
表1 調査の実施結果

| 項目 | (所、%) | | | |
|------------|----------------|-----------------|------------------|-------|
| | I 岡山 都市圏 | II 倉敷 都市圏 | III 福山 都市圏 | 合計 |
| ①発送事業所数 | 788 | 845 | 870 | 2,503 |
| ②有効発送事業所数 | 788 | 804 | 847 | 2,439 |
| ③回答事業所数 | 173 | 163 | 209 | 545 |
| ④回収率 (③/②) | 22.0 | 20.3 | 24.7 | 22.3 |

(注) 有効発送事業所は宛所不明等を除く

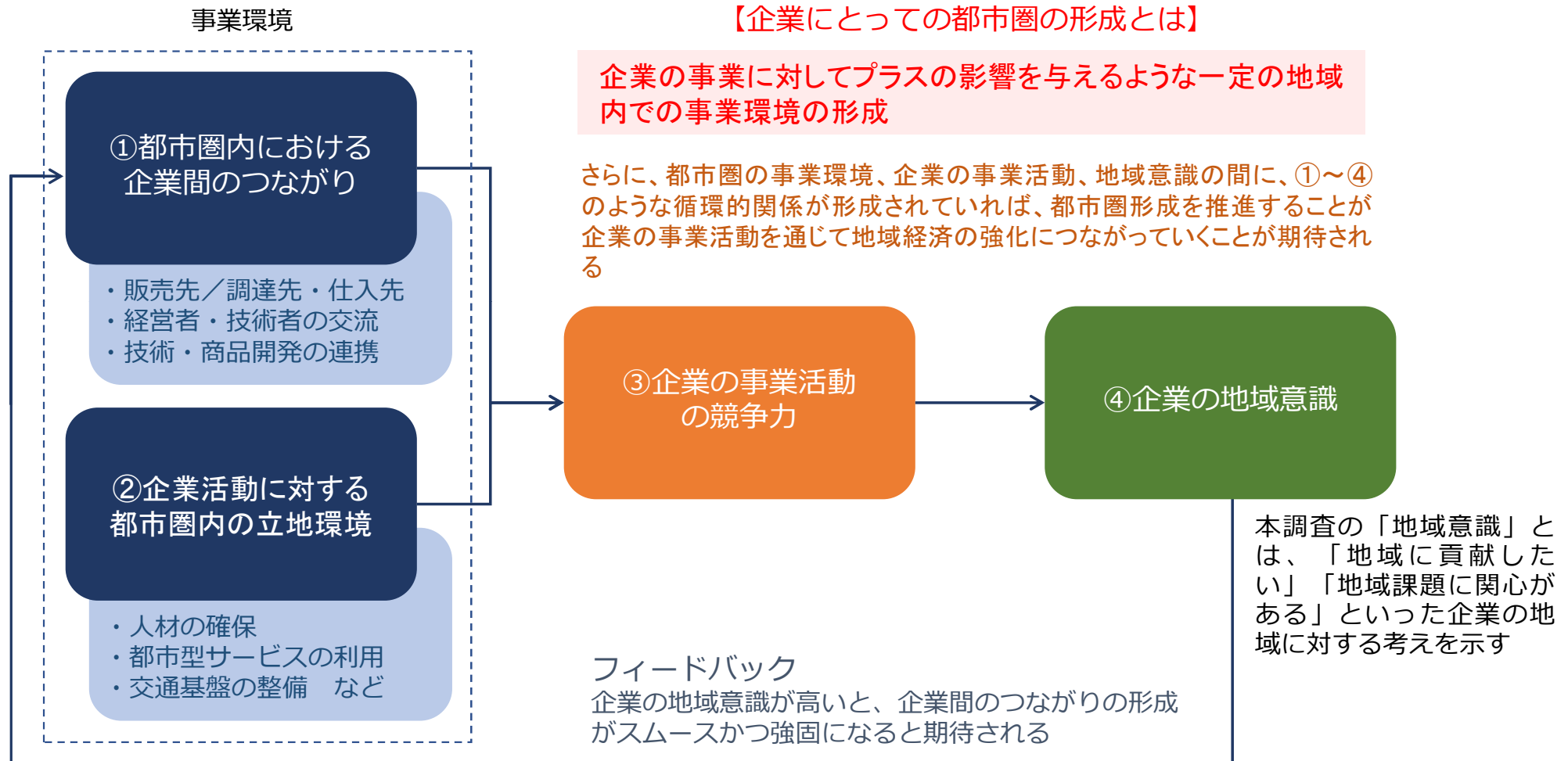
図3 回答事業所の産業分類 (3都市圏計)





都市圏形成と企業活動の関係に関する基本的な考え方

図4 都市圏形成と企業活動の循環的關係



都市圏の事業環境が与えるプラスの影響

- 前ページの①および②から③への関係を把握するため、まず「総合的にみて、立地する都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか」を尋ねたところ、**3都市圏計では、肯定的な意見**(「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計)は**70%**に達する。
- 上記を都市圏別でみると、岡山、倉敷、福山の順で肯定的意見が多い。「非常にそう思う」と「そう思う」の合計では、岡山は、倉敷、福山の倍近い回答を得ている。
- 企業の事業活動に**プラスの影響を与える環境があることが「都市圏形成」の条件と捉え**ると、各都市圏とも肯定的意見が60%～80%に達しており、**高いレベルで都市圏が形成されていると考えられる**。ただし、岡山、倉敷、福山の順で都市圏形成の程度が高いと解釈され、**地域間で差がみられる**。

図5 総合的にみて、立地する都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか（3都市圏計、単数回答）

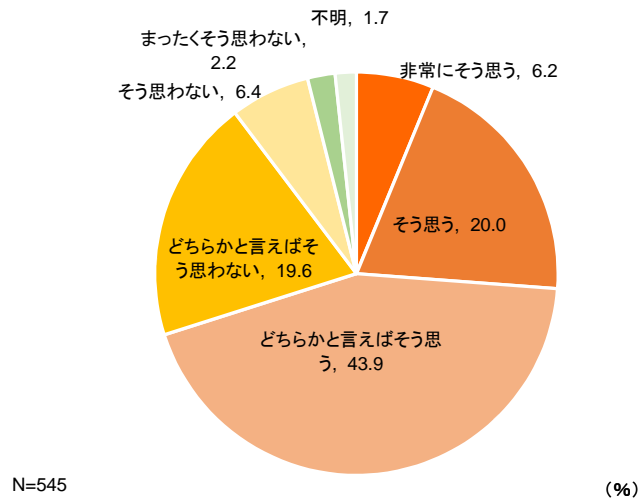
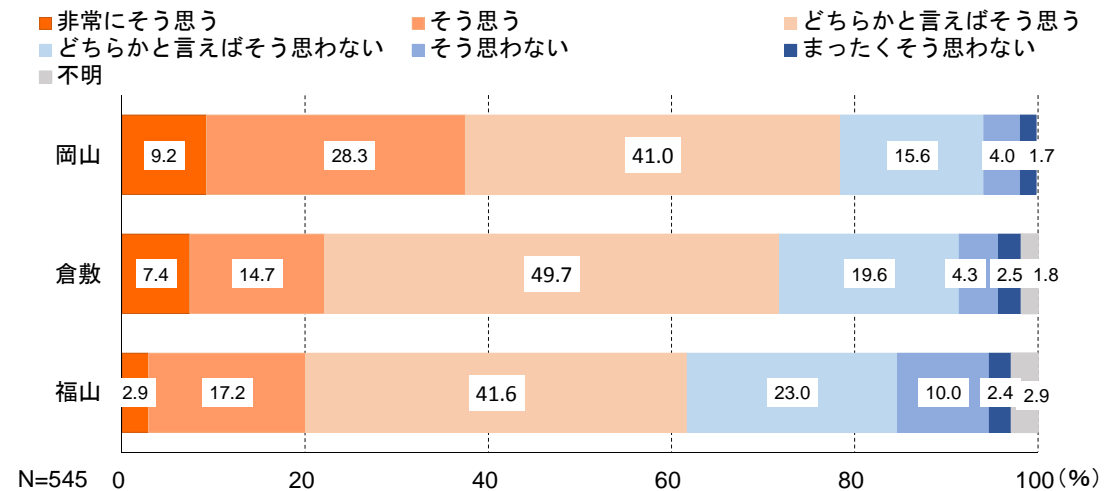


図6 総合的にみて、立地する都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか（単数回答）



事業等に対する立地する都市圏の位置づけや地域に対する意識

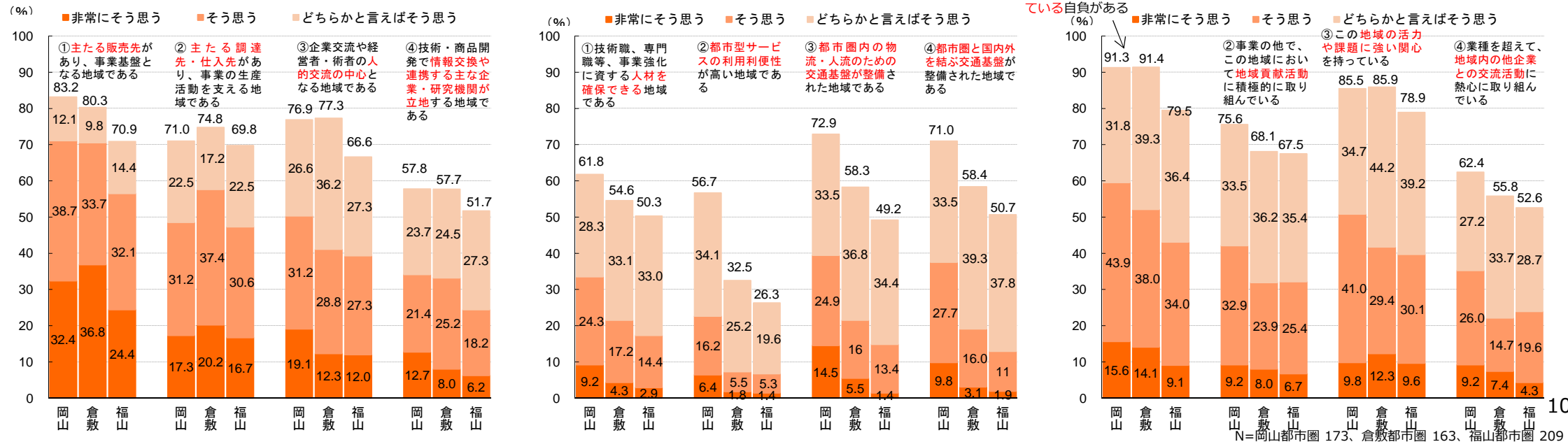
- 都市圏の事業環境が企業の事業にプラスの影響を与えている状況に**地域差が生じたこと**の要因を調べるため、事業環境の項目別に都市圏の位置づけ(企業の事業にとってどのような地域と言えるか)を把握した。
- 企業間取引・企業間連携および立地環境の項目の中で**地域差が最も大きいものは、(2)②「都市型サービスの利用利便性」**であり、**岡山と福山の肯定的意見には30ポイントの差**がある。他の立地環境の項目も地域の差が大きい。これらにより主に都市機能等の立地環境の違いが、企業にとっての都市圏形成の差に影響していると考えられる。
- 一方、(1)企業間取引・企業間連携の項目はいずれも肯定的意見が多く、都市圏間の差異も小さい。このため、**企業間関係は都市圏形成の基礎**になっていると考えられる。
- (3)の企業の**地域に対する意識は総じて高い**(肯定的意見が多い)ものの**比較的地域間の差が大きい**。都市圏の事業環境の**事業への影響度を反映している可能性**がある。

図7 事業所の事業等に対する立地する都市圏の位置づけや地域に対する意識 (単数回答)

(1) 企業間取引・企業間連携

(2) 立地環境

(3) 地域に対する意識

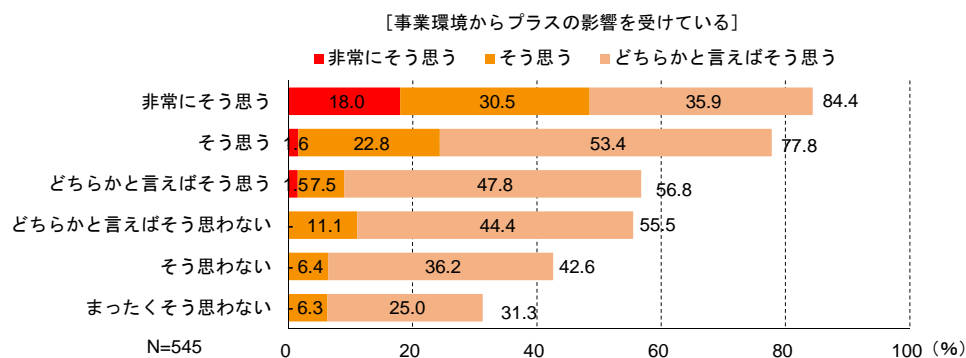


立地都市圏の事業環境とプラスの影響との関係（企業間取引・企業間連携）

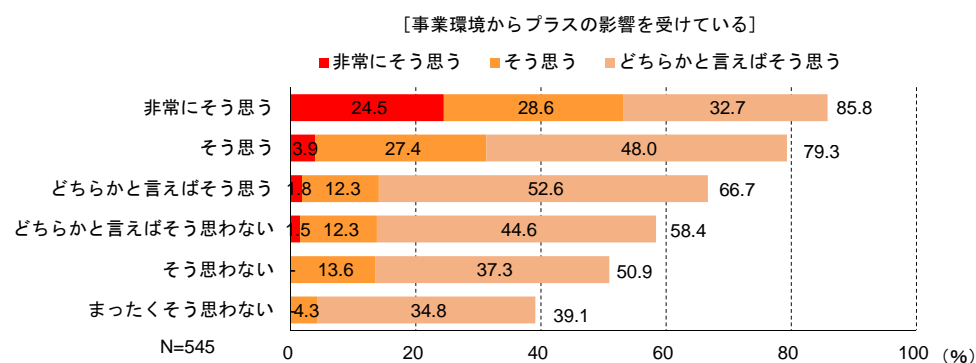
- 都市圏の事業環境が企業の事業に対してプラスの影響を与えていることを確認するため、各事業環境を形成する項目に対する回答と、「総合的にみて、立地する都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか」の回答との関係を調べた。
- 企業間取引・企業間連携のすべての項目で、評価が高いほど「プラスの影響を受けている」事業所が多いことが明らかである。

図8 事業環境の項目別評価と事業環境からプラスの影響を受けている事業所の関係（企業間取引・連携、3都市圏計）

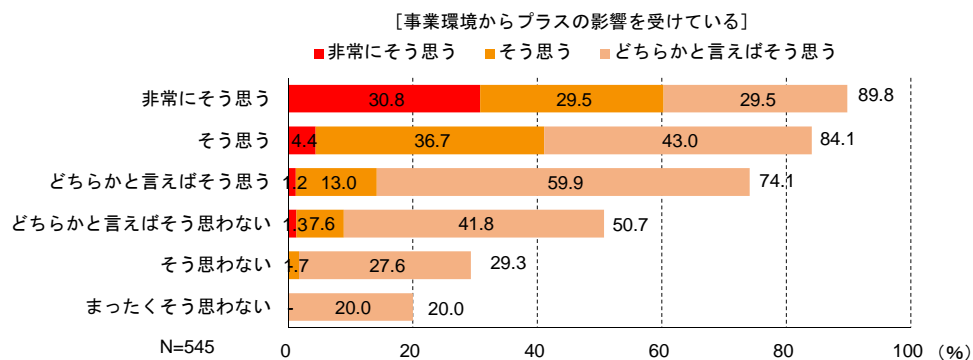
①主たる販売先があり、事業基盤となる地域である



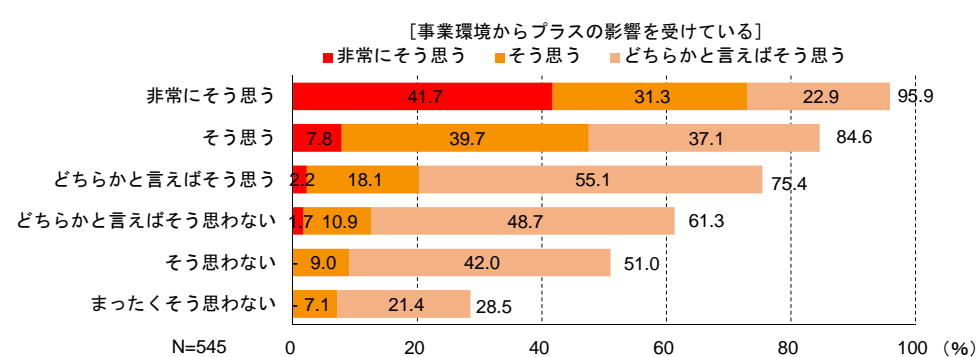
②主たる調達先・仕入先があり、事業の生産活動を支える地域である



③企業交流や経営者・技術者の人的交流の中心となる地域である



④技術・商品開発で情報交換や連携する主な企業・研究機関が立地する地域である

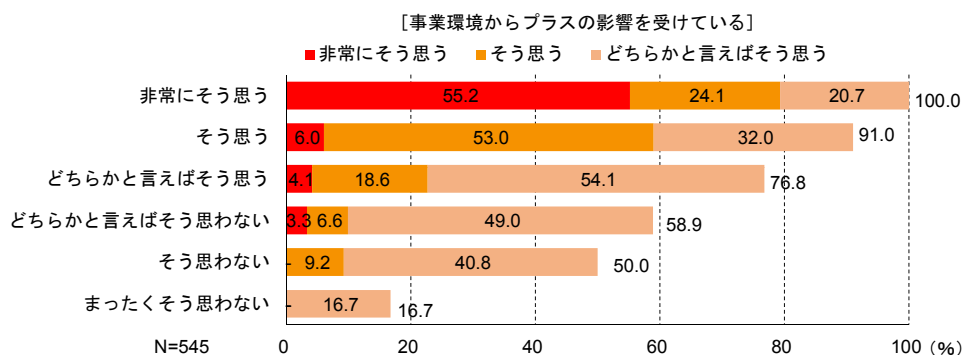


立地都市圏の事業環境とプラスの影響との関係（立地環境）

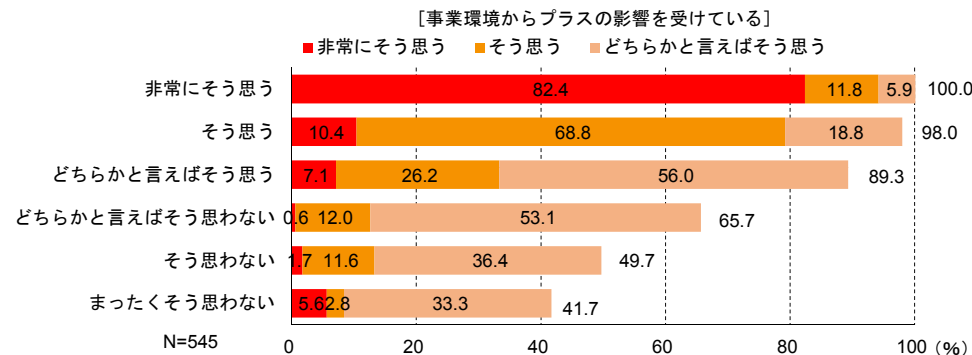
■ 事業環境のうち立地環境の項目をみても、その評価が高いほど「プラスの影響を受けている」事業所が多くなっている。両者の関係は、企業間取引・連携の項目よりも強くなっているように見える(11ページ「参考」を参照)。

図9 事業環境の項目別評価と事業環境からプラスの影響を受けている事業所の関係（立地環境、3都市圏計）

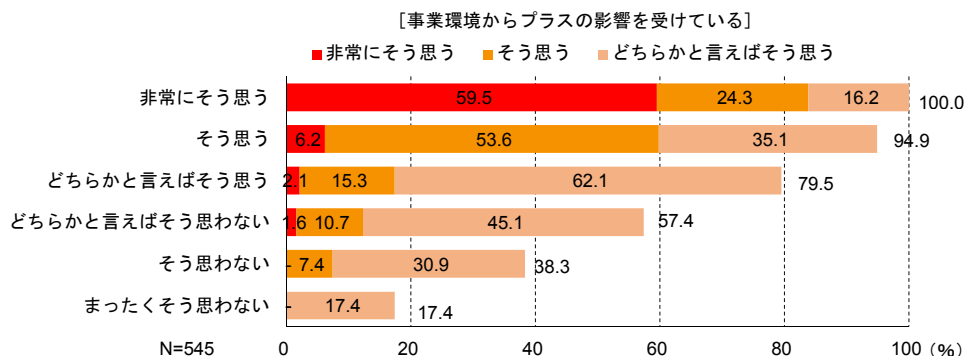
①技術職、専門職等、事業強化に資する人材が確保できる地域である



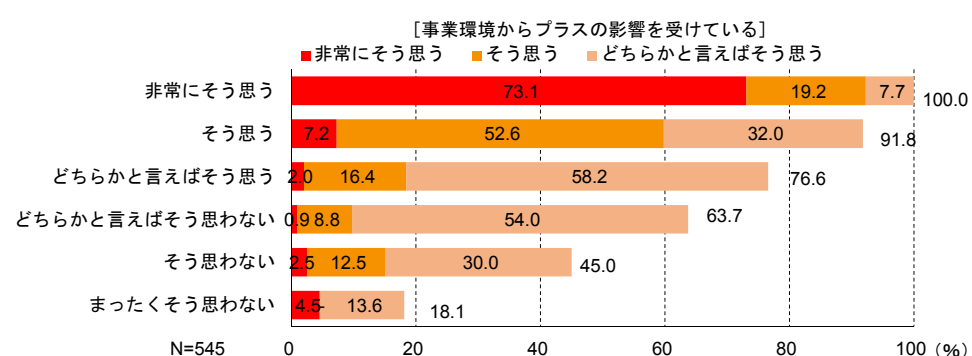
②都市型サービス（会議、国際化支援、デザイン、情報関連等）の利用利便性が高い

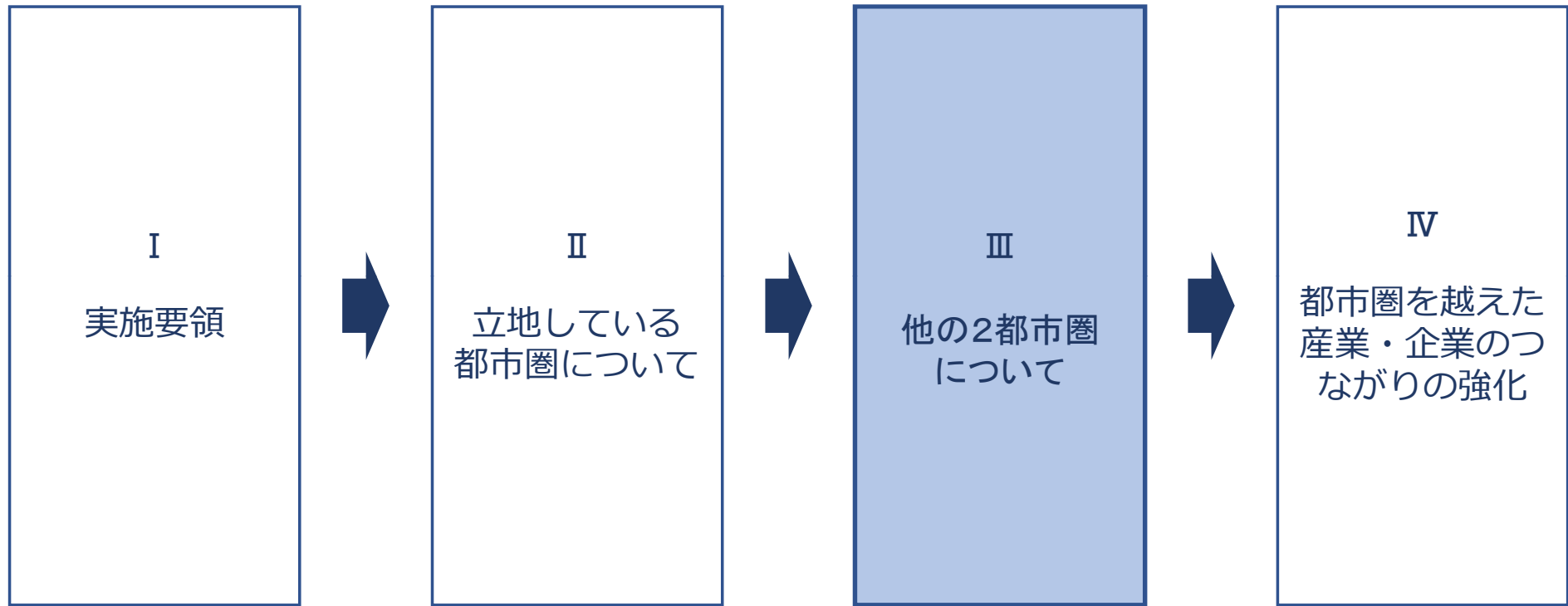


③都市圏内の物流・人流のための交通基盤が整備された地域である



④都市圏と国内外を結ぶ交通基盤が整備された地域である

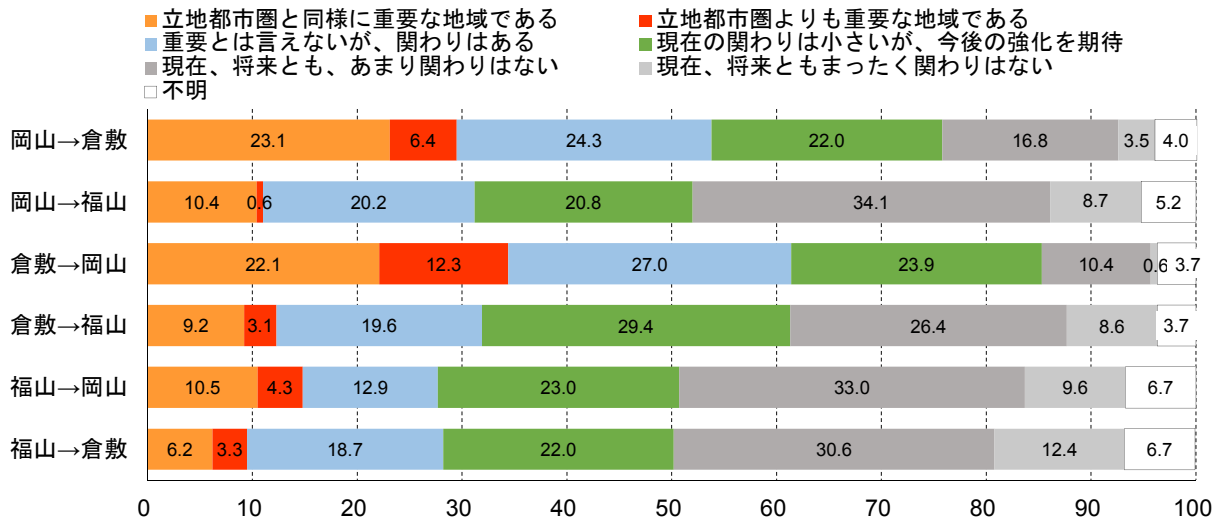




他の都市圏の事業環境が与えるプラスの影響

- 他の都市圏について自社の事業競争力に影響を与える地域かどうか尋ねたところ、「立地都市圏と同様に重要な地域である」と「立地都市圏よりも重要な地域である」の合計は岡山・倉敷間で回答が多い。
- 8ページに示す「企業にとっての都市圏形成」の関係が都市圏間で相互にスピルオーバー(拡散)している状況を「都市圏間ネットワーク」と捉えると、福山は倉敷にとって岡山同様に隣接圏域であるにも関わらず、岡山・倉敷には倉敷・福山との関係にはないつながりの強さがある。ただし、「立地都市圏と同様に重要」「立地都市圏よりも重要」の回答は岡山・倉敷間でも約30%に過ぎず、強い都市圏間ネットワークが形成されているとは考えにくい。
- 岡山・倉敷間で比較すると、倉敷では、自地域の評価(「立地都市圏の事業環境がプラスの影響を与えている」)に対して「非常にそう思う」と「そう思う」より、岡山の評価(「立地都市圏と同様に重要」と「立地都市圏よりも重要」)の方が高い。岡山・倉敷の関係は双方向でありつつも、倉敷が受ける影響力の方がやや大きい。

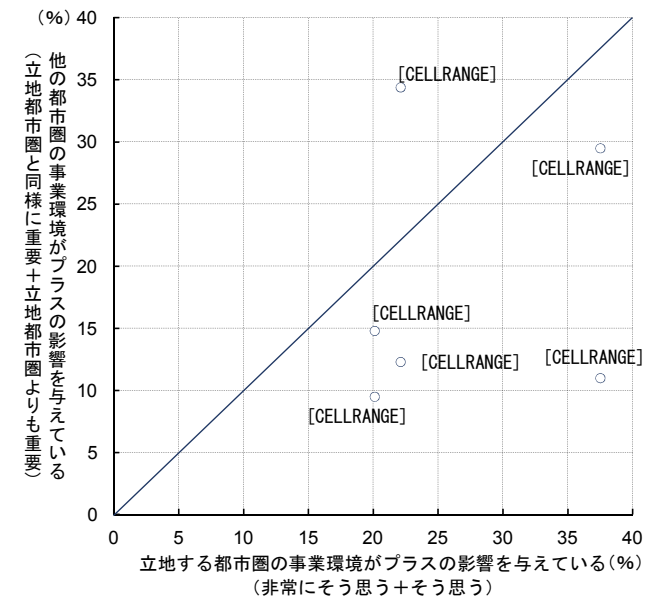
図10 総合的にみて、他の都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか(単数回答)



N: 岡山都市圏 173、倉敷都市圏 163、福山都市圏 209

「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表わしている

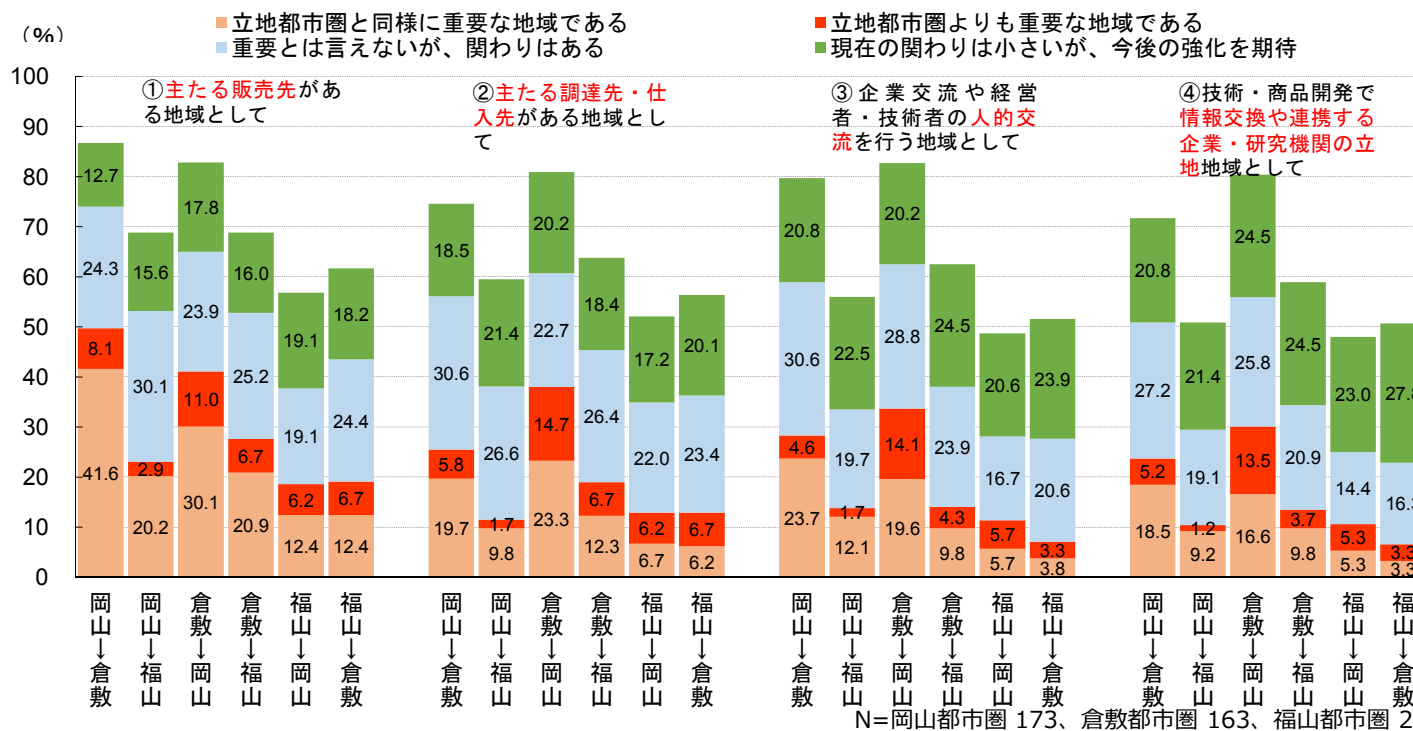
図11 立地都市圏からのプラスの影響と他の都市圏からのプラスの影響の比較



他の都市圏と事業所の事業等との関わり（企業間取引・企業間連携）

- 他の都市圏に対する全体的な事業環境の評価がどのような項目の影響を受けているのか、企業間関係について項目別にみた。結果、「主たる販売先がある地域」として岡山の倉敷に対する評価が大きい。それと対となる形で「主たる調達先・仕入先がある地域」として倉敷の岡山に対する評価が大きい。
- 上記は、倉敷が岡山に調達・仕入を依存し、その結果として、岡山は倉敷が有する「国内外から稼ぐ力」と強く結びついているという関係を示していると考えられる（相互性の存在）。
- 倉敷からみた岡山の評価には「立地都市圏よりも重要な地域である」という回答が10%を超えており、特徴となっている。また、どの都市圏間も「現在の関わりは小さいが、今後の強化を期待」という回答が約20%存在する。

図12 他の都市圏と事業等との関わり（企業間取引・企業間連携、単数回答）

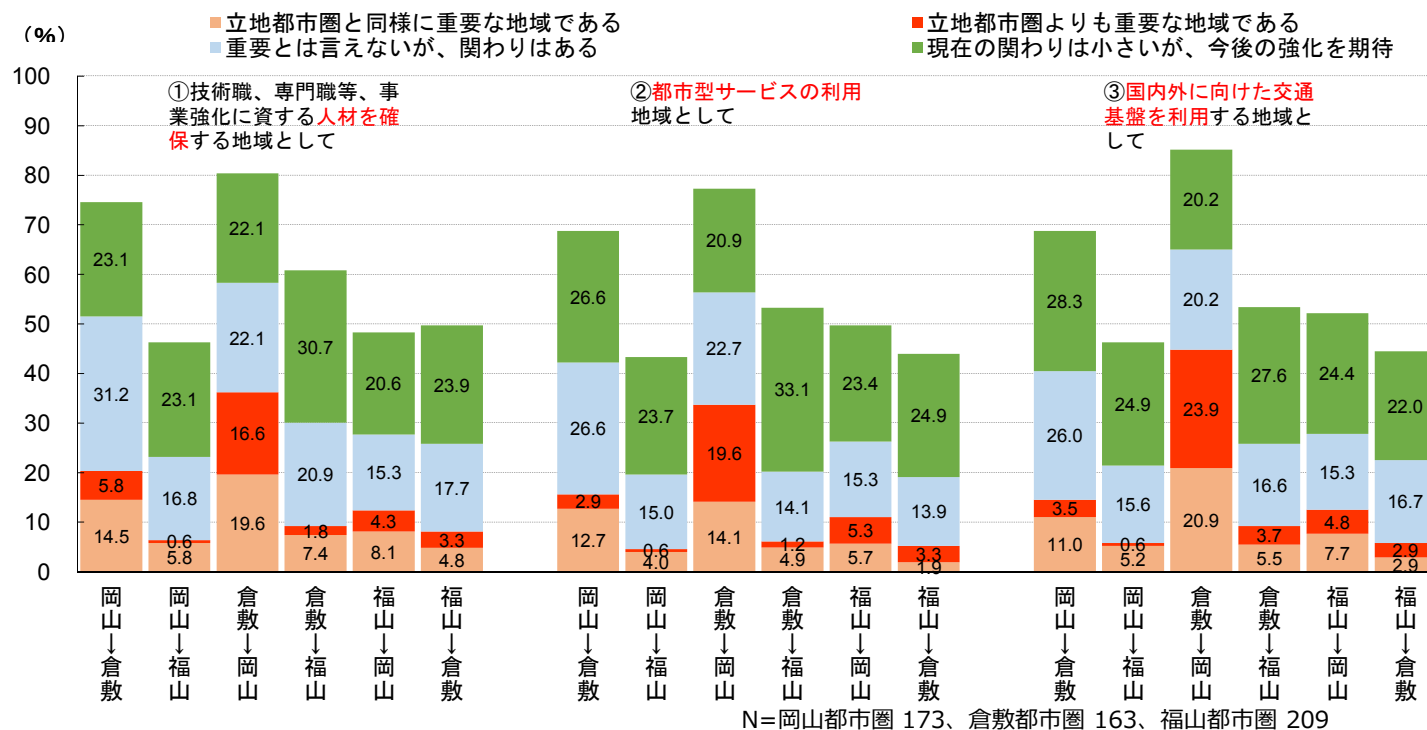


「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表わしている

他の都市圏と事業所の事業等との関わり（立地環境）

- 立地環境の項目別評価は企業間関係とは異なる結果となった。3都市圏の関係の中で、**人材確保、都市型サービス利用、国内外への交通基盤利用のいずれも倉敷の岡山に対する評価が際立って高い。**
- 特に、倉敷の岡山の都市型サービスと交通基盤に対する評価は、「立地都市圏と同様に重要」よりも「立地都市圏よりも重要」が上回る。
- 今後の強化に対する期待は、すべての項目で20%を超え、30%に達しているものもあり、企業間関係以上に回答が多い。

図13 他の都市圏と事業等との関わり（立地環境、単数回答）

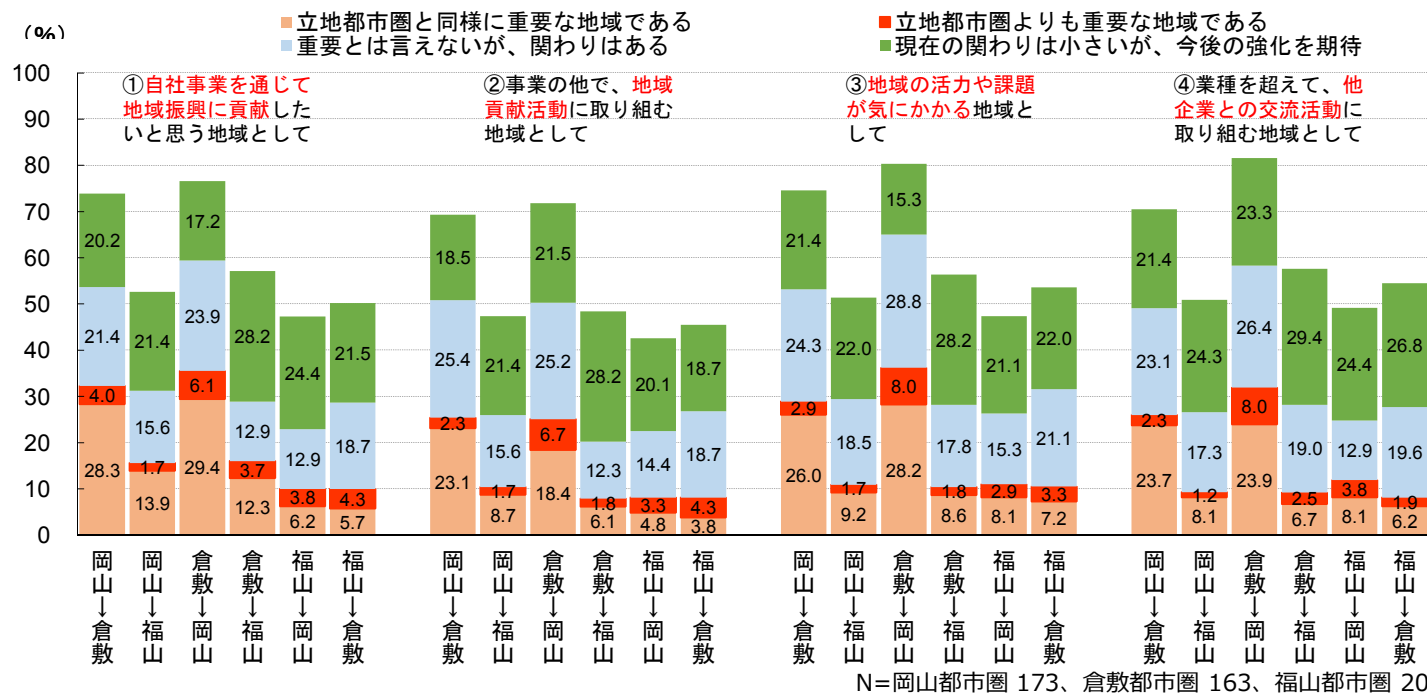


「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表わしている

他の都市圏と事業所の事業等との関わり（地域に対する意識）

- 他の都市圏に対する地域意識をみると、地域意識を構成する項目のすべてで、岡山から倉敷、倉敷から岡山の両方で「立地都市圏と同様に重要」「立地都市圏よりも重要」の合計が30%程度に達する。
- 福山は倉敷にとって岡山と同じく隣接都市圏であるものの、倉敷からみた岡山と福山に対する回答には大きな差がみられ、倉敷・福山との関係に比べ、岡山・倉敷間には意識面で強くつながっている事業所は多い。
- 岡山・倉敷間の「今後の強化を期待」という回答は20%であり、「重要」という回答を加えると50%程度に達する。こうした企業の意識面のつながりは都市圏間ネットワークの基礎となる可能性がある。
- この他、「今後の強化を期待」は倉敷から福山への回答が30%に近く、他に比べて大きい。

図14 他の都市圏と事業等との関わり（地域に対する意識、単数回答）

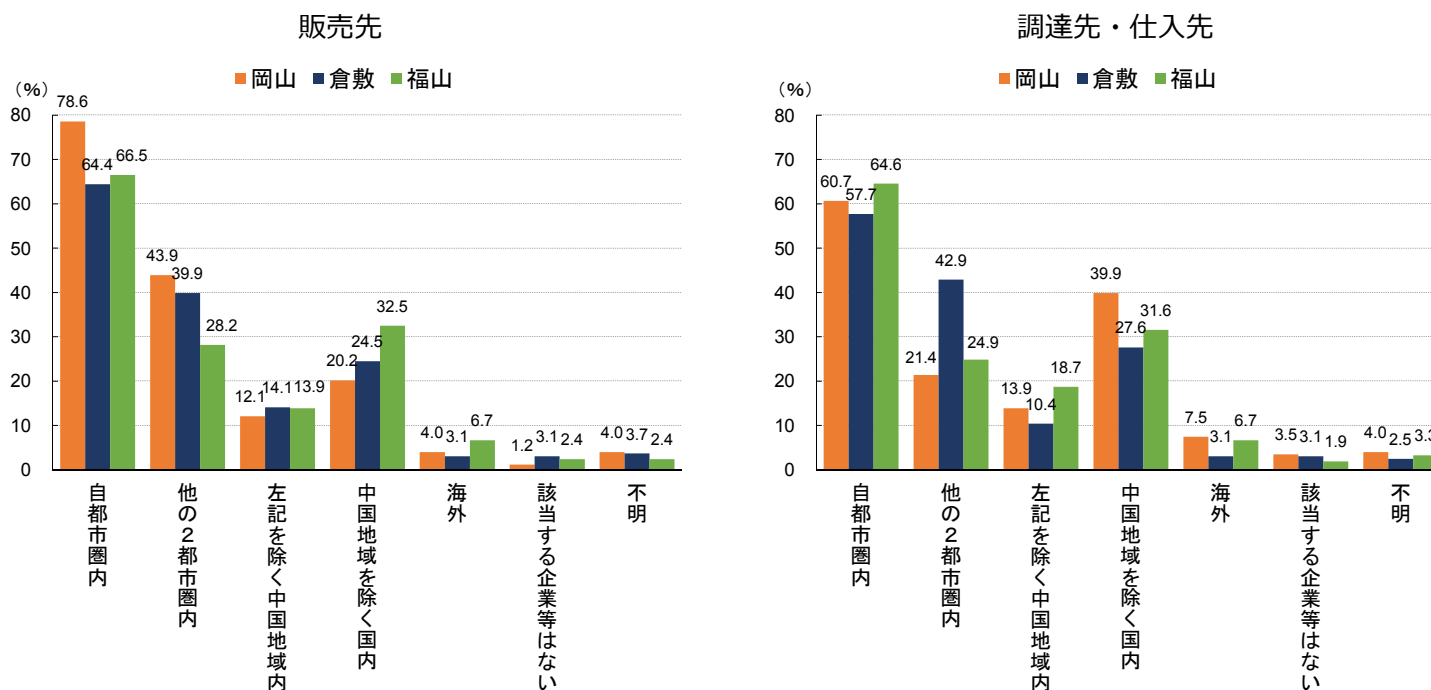


「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表わしている

関係先企業や研究機関等が立地する地域（企業間取引）

- ここまでの集計結果の背景を探るため、各都市圏の事業所が、三つの都市圏外を含め実際にどのような地域と取引を行っているかを把握した。結果、**販売先、調達先・仕入先とも「自都市圏内」が60%～80%に達する**。岡山の販売先で「自都市圏内」が79%に達するが、3都市圏の間で大きな差異はみられない。
- 各都市圏において「他の2都市圏内」が販売先になっている事業所は**岡山、倉敷、福山の順**で多く、都市圏の経済規模や地理的な位置関係が影響していると考えられる。**調達先・仕入先は倉敷において「他の2都市圏内」が際立って多く**、15ページの図12からは主に岡山からの仕入・調達の大きさが表れているものと考えられる。
- 販売では、「中国地域を除く国内」と「他の2都市圏内」の傾向が対称的であり、**倉敷や福山が都市圏外に対して移出して「域外から稼いでいる」**状況が表れている。

図15 関係先企業や研究機関等が立地する地域（企業間取引、複数回答）



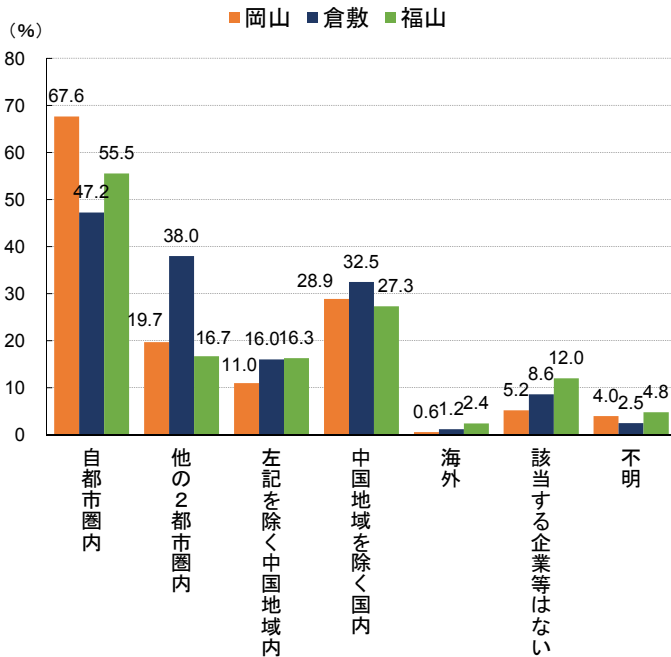
「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表わしている

関係先企業や研究機関等が立地する地域（情報交流・連携）

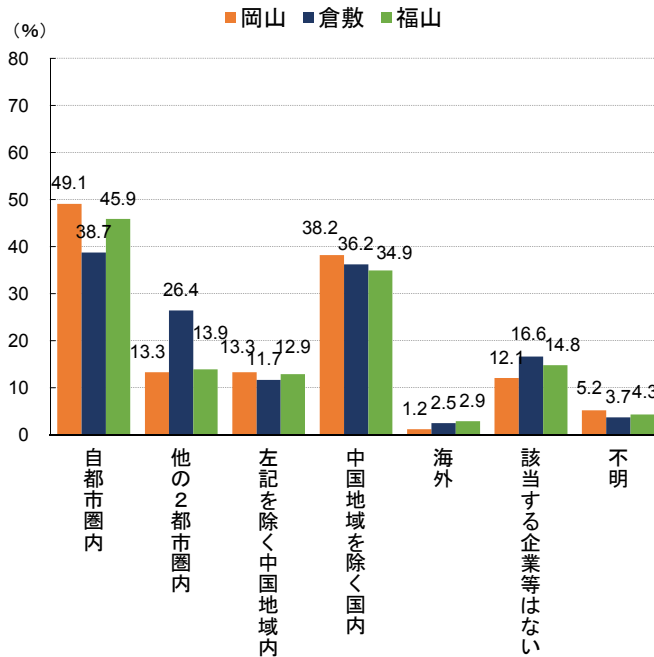
- 情報交流や研究開発等に関わる連携の状況をみると、企業間取引に比べ「自都市圏内」が全体的に少なくなるものの、**岡山**の「情報交換を行う同業他社」は「自都市圏内」が70%近い。倉敷では「情報交換を行う他社」に「他の2都市圏内」を挙げる事業所が多く、特徴になっている。
- 開発活動において情報交換や連携を行う他社や大学・研究機関は、「自都市圏内」と「中国地域を除く国内」が同程度になっている。その中で、上と同様に、倉敷では「他の2都市圏」を挙げる事業所が多くなっている。

図16 関係先企業や研究機関等が立地する地域（情報交流・連携、複数回答）

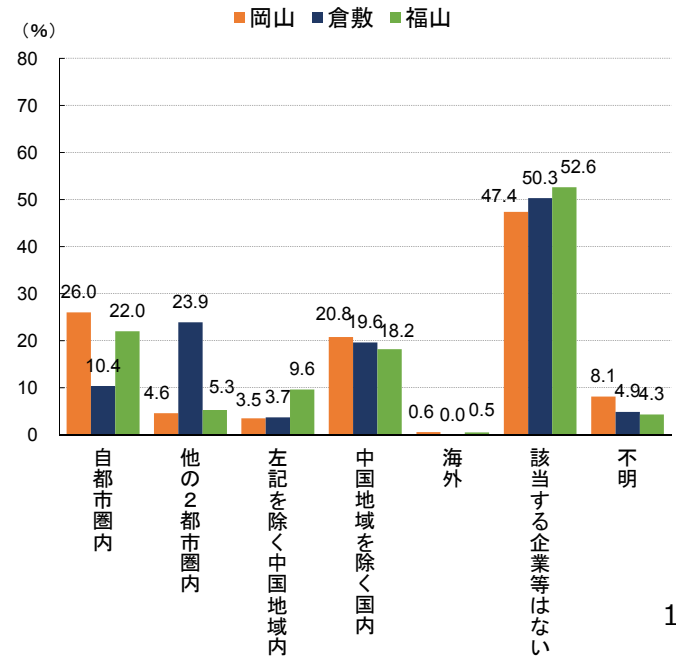
業界動向、経営等について情報交換を行う同業他社



技術開発・事業開発において、情報交換や連携を行う他社



研究情報・技術情報の提供を受けている大学・研究機関



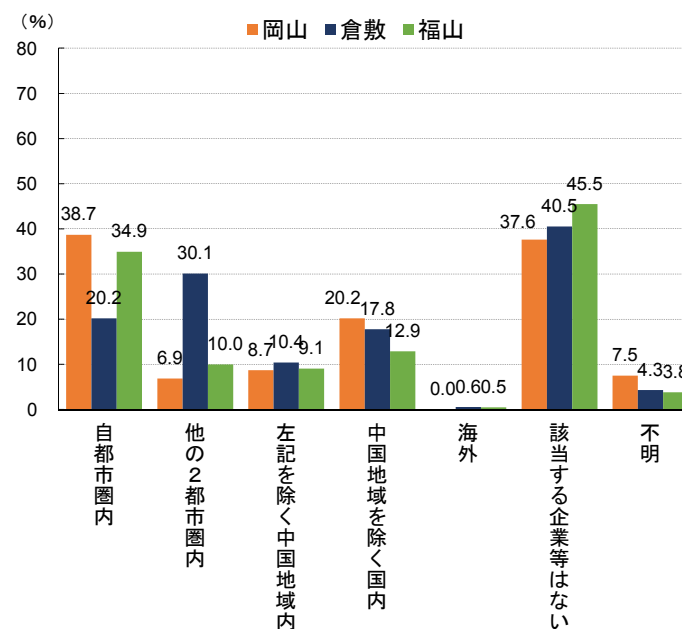
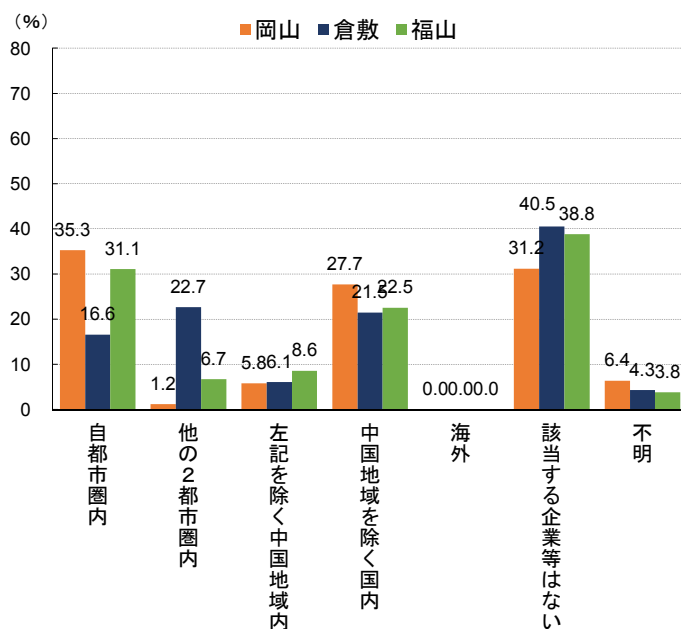
関係先企業や研究機関等が立地する地域（都市機能、人材）

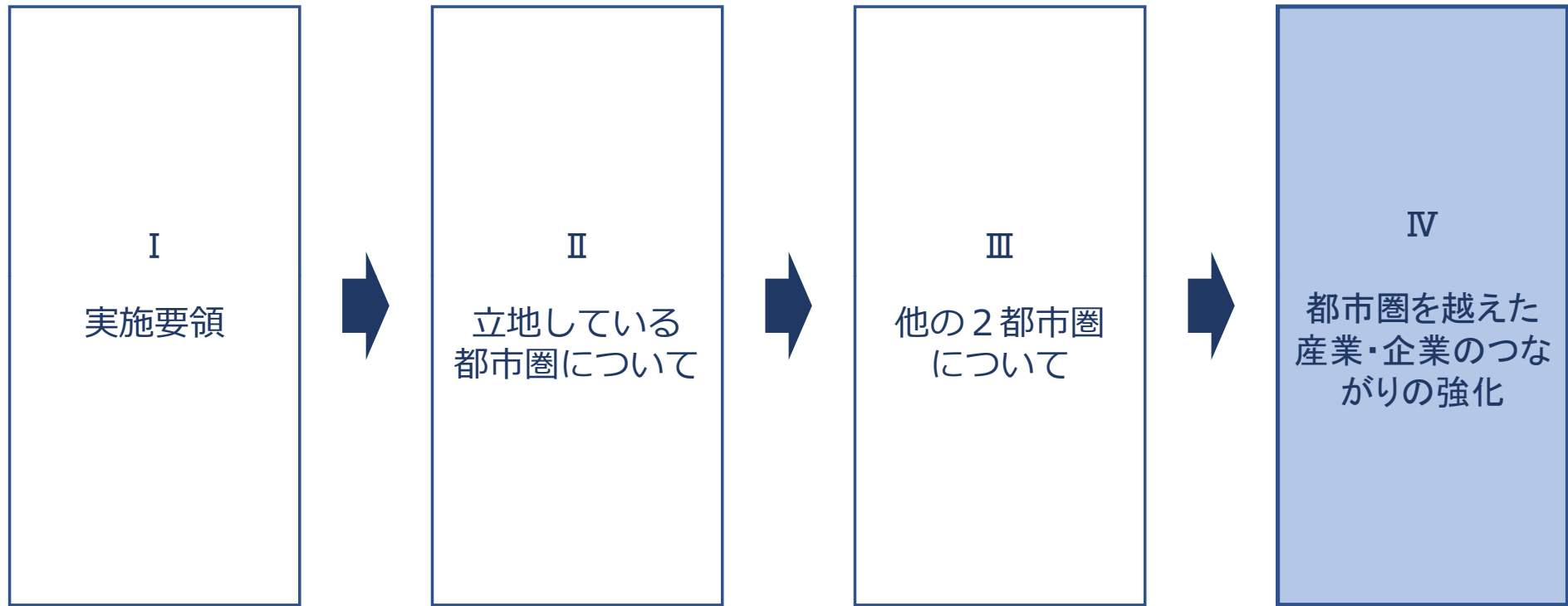
- 財務、IT活用、経営全般等についてコンサルティングを行う事業所は一定以上の規模の都市に立地することから「都市機能」を構成すると考えられる。その利用先をみると、岡山と福山では「自都市圏内」と「中国地域を除く国内」が多くなっているものの、倉敷では「他の2都市圏内」が「自都市圏内」を上回っている。立地環境を形成する都市機能水準の差や、岡山と倉敷の経済的なつながりの強さを反映していると考えられる（岡山ほど都市機能が高くないと考えられる福山で「自都市圏内」の割合が高い）
- 人材確保のためつながりがある大学・高専、研修機関も、上記と傾向は同じである。岡山で「中国地域を除く国内」がやや多くなっているのは、東京等が本社である支社・支店・分工場の立地状況が影響していると考えられる。

図17 関係先企業や研究機関等が立地する地域（都市機能・人材、複数回答）

財務、IT活用、経営全般等についてコンサルティングを受ける専門サービス企業

技術職・専門職等の人材確保のためつながりがある大学・高専、研修機関等

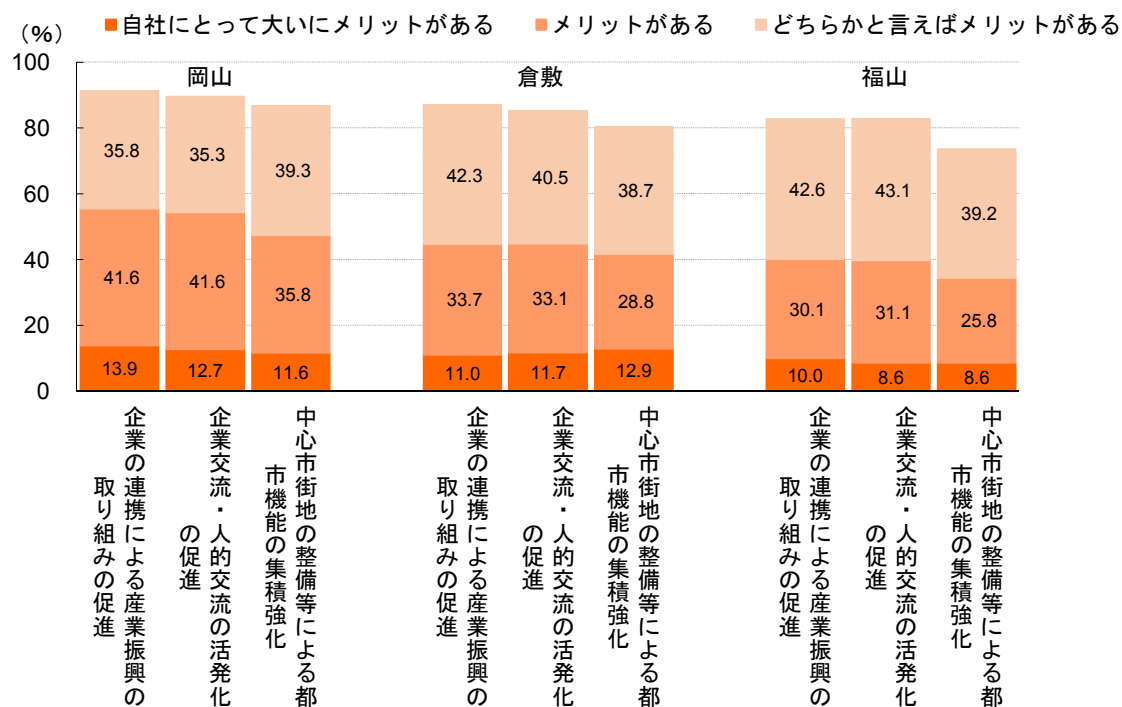




立地する都市圏内の産業・企業をつなぐの強化について

- 立地する都市圏内で産業・企業をつなぐを強化する取り組みが企業にとってメリットがあるかどうかを尋ねたところ、「企業の連携による産業振興」「企業交流・人的交流の活発化」「中心市街地の整備等による都市機能の集積強化」の三つの取り組みに対して肯定的な意見が約80%を占める。
- 都市圏別では肯定的に意見の多さに大差はみられないものの、「大いにメリットがある」と「メリットがある」の合計では岡山での評価がやや高くなっている。

図19 立地する都市圏内の産業・企業をつなぐを強化する取り組みについて（単数回答）

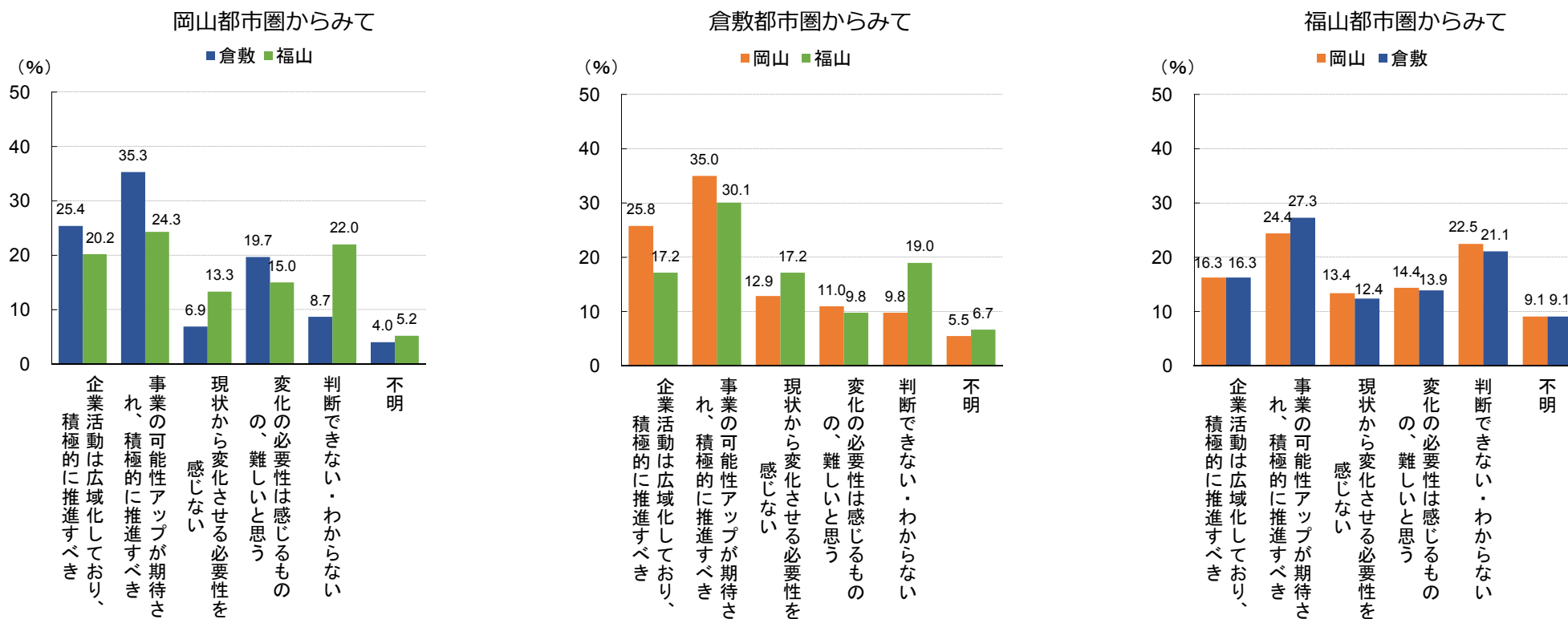


N=岡山都市圏 173、倉敷都市圏 163、福山都市圏 209

他都市圏の産業・企業とのつながりの強化について

- 3都市圏のいずれも、他の2都市圏の産業・企業とのつながり強化を「積極的に推進すべき」とする事業所が多い。岡山都市圏からみた倉敷都市圏、倉敷都市圏からみた岡山都市圏とのつながりの強化は両方とも、現状からの判断(企業活動は広域化しているから)と期待(事業の可能性アップ)の合計で「積極的に推進すべき」が60%を上回る。
- 「現状」と「期待」を比較すると、すべての都市圏の組み合わせにおいて「積極的に推進すべき」の回答は期待が現状を上回っている。このことから、期待はあっても実現できていない事業所の方が多いと判断される。

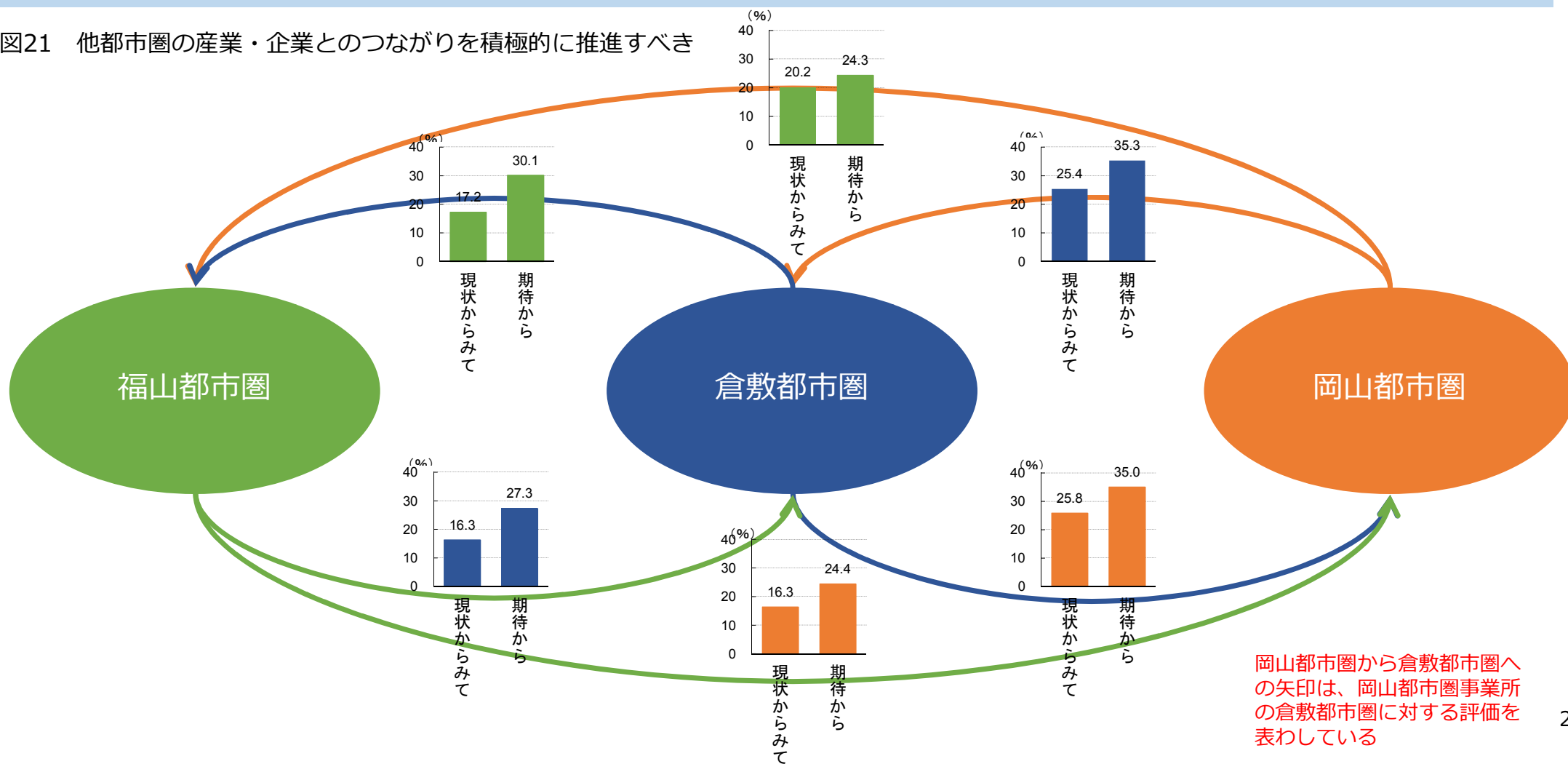
図20 他の都市圏の産業・企業とのつながりの強化について (単数回答)



他都市圏の産業・企業とのつながりを積極的に推進すべき

- 他の都市圏の産業・企業とのつながり強化を「積極的に推進すべき」という回答を、都市圏の組み合わせがわかるよう図に表わした。
- 岡山→倉敷、倉敷→岡山の回答が対称的であり、両者の回答は「双方向」になっている。

図21 他都市圏の産業・企業とのつながりを積極的に推進すべき

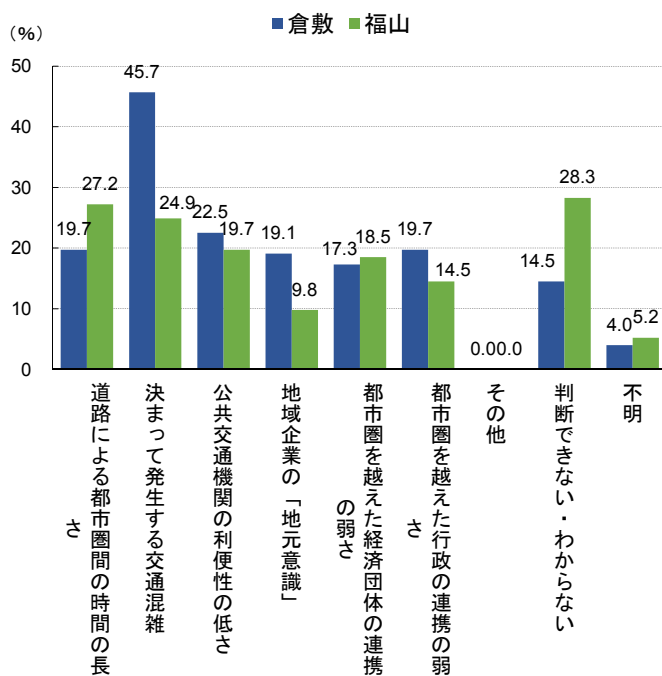


他の都市圏の産業・企業とのつながりを強化する上での問題

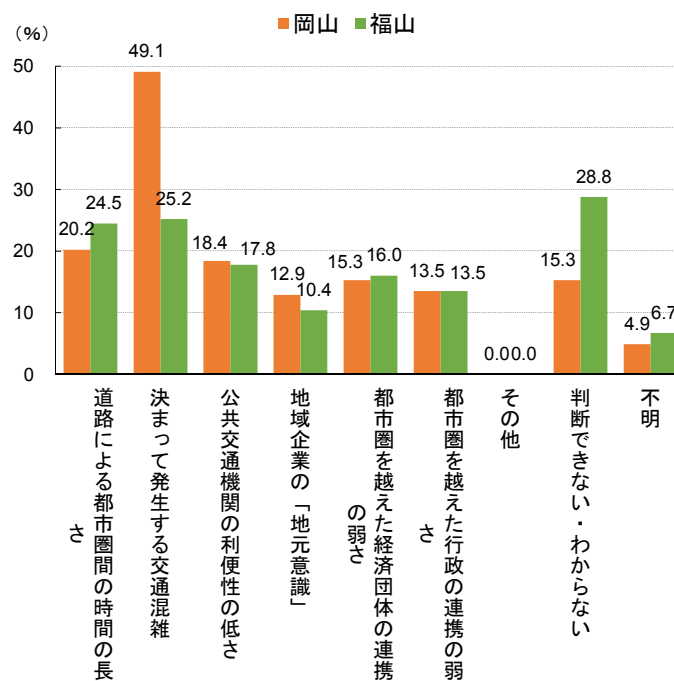
- 都市圏間の産業・企業とのつながりの強化を阻害する問題点として、岡山・倉敷の両都市圏の間で「**決まって発生する交通混雑**」を挙げる事業所が**50%近く**、他に比べて際立っている。福山から見た他の2都市圏に対する問題点も「交通混雑」とする事業所が最も多い。
- 交通面を除くと、岡山からみて、**倉敷の企業の地元意識**や、**両都市圏間の経済団体や行政の連携の弱さ**を指摘する事業所が20%近く、特徴になっている。

図22 他の都市圏の産業・企業とのつながりを強化する上での問題（複数回答）

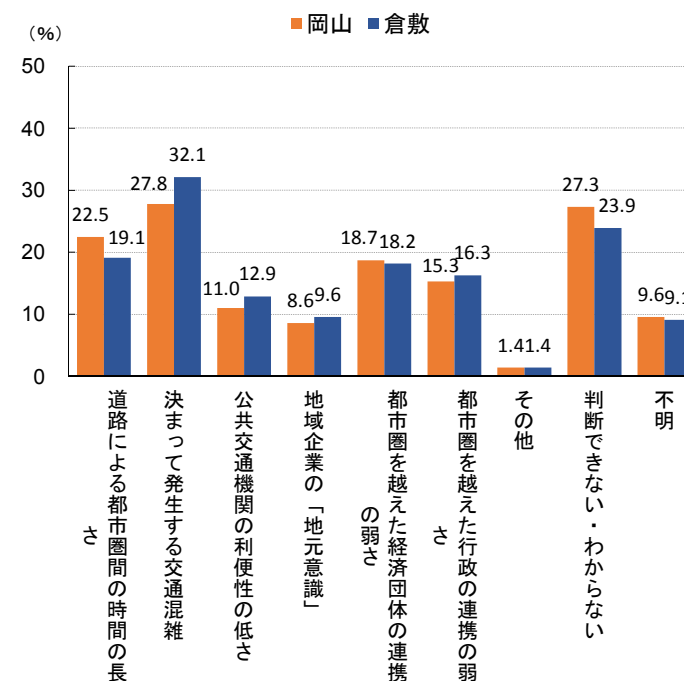
岡山都市圏からみて



倉敷都市圏からみて



福山都市圏からみて

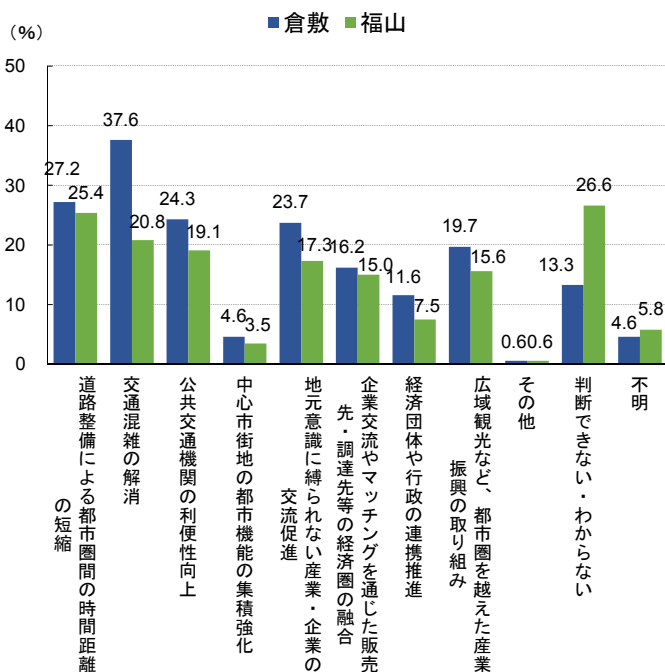


他の都市圏の産業・企業とのつながりを強化するために必要なこと

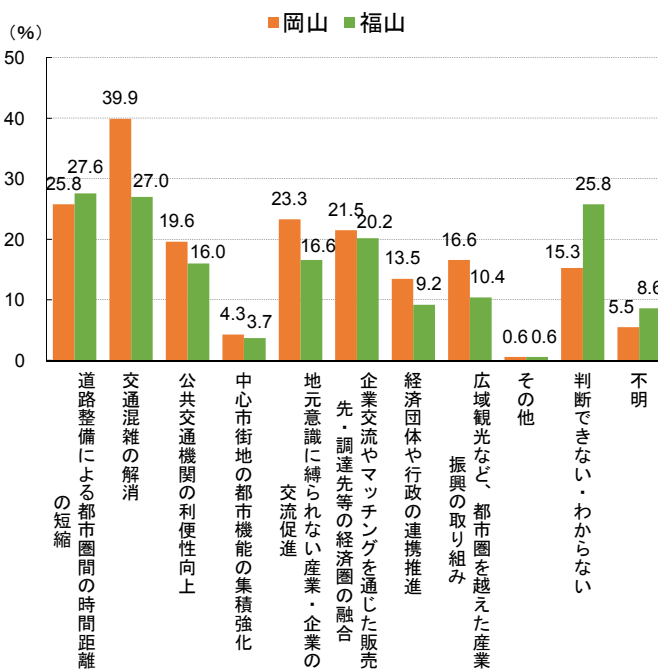
- 都市間の産業・企業とのつながりを強化するために必要なこととして、岡山・倉敷間では交通混雑を挙げる事業所が最も多かったが、その結果を受けて、岡山・倉敷間では約40%が「交通混雑の解消」を挙げている。岡山からみた福山とのつながりは「交通混雑の解消」よりも「道路整備による都市圏間の時間距離の短縮」の方が多く、隣接都市圏とは異なる結果が表れている。
- 岡山・倉敷間では、どちらからみても「地元意識に縛られない産業・企業の交流促進」が約4分の1に達しているほか、倉敷や福山からは「企業交流やマッチングを通じた販売先・調達先等の産業・企業の交流促進」に対する回答が多い。

図23 他の都市圏の産業・企業とのつながりを強化するために必要なこと（複数回答）

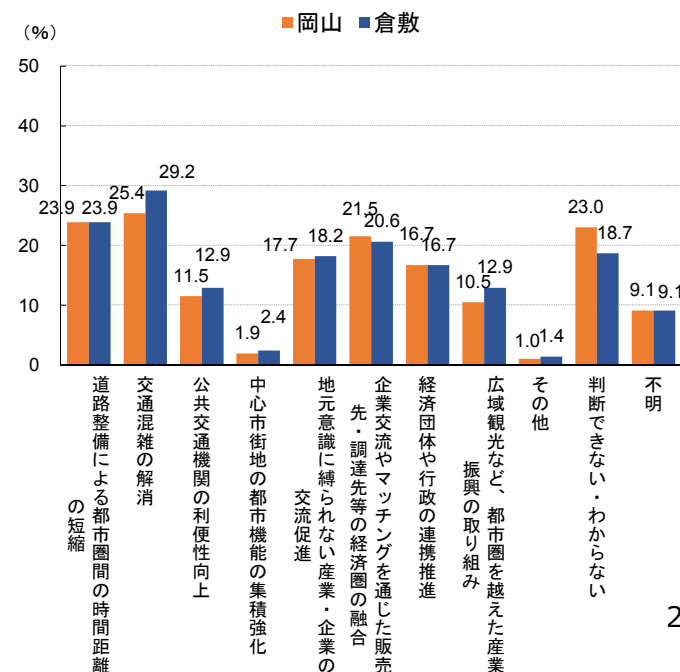
岡山都市圏からみて



倉敷都市圏からみて



福山都市圏からみて



調査結果のまとめ（1）

【調査結果①】

- 調査対象とした岡山、倉敷、福山の3地域では、「企業活動にプラスの影響を与える事業環境がある」という点でしっかりとした都市圏が形成されている。
- 3都市圏では、こうした都市圏の形成は、主に企業間関係が基礎になったものである。

【調査結果②】

- 3都市圏のうち、岡山・倉敷間には、それぞれの圏域の事業環境からプラスの影響を同じくらい受けているという双方向性がみられる。
- これには、岡山と倉敷の間における販売や調達・仕入といった取引関係が影響している。

【調査結果③】

- 人材確保、都市型サービス、国内外への交通基盤といった立地環境（都市機能）には、岡山と他の都市圏の間で自都市圏の評価に大きな差がみられる。
- 岡山・倉敷間の企業間取引の双方向性を踏まえると、倉敷からの岡山の都市機能に対するアクセスは、両都市圏の企業活動にとって重要な意味を持つ。

【調査結果④】

- 各都市圏では地域への貢献意識、地域課題への関心といった「地域意識」も高く、都市圏形成にプラスに働いていると考えられる。
- 岡山・倉敷の間では、相互の都市圏に対する「地域意識」が強かつ双方向的である。

「地域意識」が都市圏のつながりを強化するという好循環を生み出す可能性

調査結果のまとめ（2）

【調査結果（再掲）】

①企業にとってのしっかりと
した都市圏の形成

②岡山・倉敷の企業間
関係の双方向性

③岡山の都市機能に対す
るアクセスの重要性

④地域意識の高さによる
好循環

【基本的な考え方】

- 岡山・倉敷の間では「産業・企業をつなぐの強化を積極的に推進すべき」が60%を上回り、かつ双方向的である。
- ただし、「期待」が「現実」を上回り、期待はあっても実現されていないと考える事業所が多い。

【実現を阻む問題点】

- 岡山・倉敷間では「決まって発生する交通混雑」が最大の問題点になっている。交通混雑の問題は、倉敷からの岡山の都市機能に対するアクセス性を低下させていると考えられ、両都市圏の発展を阻害している可能性が考えられる。

【都市圏整備の取り組みの方向性】

①都市間交通の強化

- 岡山・倉敷間の都市圏ネットワークの形成は地域企業のニーズであり、相互アクセスの強化のため交通混雑の解消を最優先課題として取り組む。
- 岡山・福山の2都市圏間では、混雑解消とともに時間距離の短縮に資する道路整備を促進する。

②企業間交流の強化

- 岡山・倉敷間には、相互の地域に貢献したい、課題を自地域同様に捉えるといった地域意識が存在。
- 都市圏ネットワークにプラスに働く地域意識を基礎に、企業間交流の強化を図ることが必要。

③多面的連携の展開

- 岡山・倉敷・福山の3都市圏では、自治体が各地域で連携中枢都市圏形成の取り組みを推進している。
- 連携中枢都市圏の施策は都市圏内を対象であるものの、企業の都市圏間ネットワークのニーズを踏まえ、自治体等を含めた都市圏間の多面的な連携について検討が必要。

— 参考 —

個々の事業所の回答を対象とした分析（非集計分析）の方法

■ 設問

（企業間取引・企業間連携）

- ①主たる販売先があり、事業基盤となる地域である
- ②主たる調達先・仕入先があり、事業の生産活動を支える地域である
- ③企業交流や経営者・技術者の人的交流の中心となる地域である
- ④技術・商品開発で情報交換や連携する主な企業・研究機関が立地する地域である

（立地環境）

- ①技術職、専門職等、事業強化に資する人材が確保できる地域である
- ②都市型サービス（会議、国際化支援、デザイン、情報関連等）の利用利便性が高い
- ③都市圏内の物流・人流のための交通基盤が整備された地域である
- ④都市圏と国内外を結ぶ交通基盤が整備された地域である

（地域に対する意識）

- ①事業がこの地域の産業競争力や人々の暮らしに役に立っている自負がある
- ②事業の他で、この地域において地域貢献活動に積極的に取り組んでいる
- ③この地域の活力や課題に強い関心を持っている
- ④業種を超えて、地域内の他企業との交流活動に熱心に取り組んでいる

■ 各事業所の回答の点数化

| 選択肢 | スコア |
|----------------|-----|
| 非常にそう思う | 6 |
| そう思う | 5 |
| どちらかと言えばそう思う | 4 |
| どちらかと言えばそう思わない | 3 |
| そう思わない | 2 |
| まったくそう思わない | 1 |

| 選択肢 | スコア |
|----------------|-----|
| 非常にそう思う | 6 |
| そう思う | 5 |
| どちらかと言えばそう思う | 4 |
| どちらかと言えばそう思わない | 3 |
| そう思わない | 2 |
| まったくそう思わない | 1 |

| 選択肢 | スコア |
|----------------|-----|
| 非常にそう思う | 6 |
| そう思う | 5 |
| どちらかと言えばそう思う | 4 |
| どちらかと言えばそう思わない | 3 |
| そう思わない | 2 |
| まったくそう思わない | 1 |

■ 新たな指標の合成

事業環境の評価

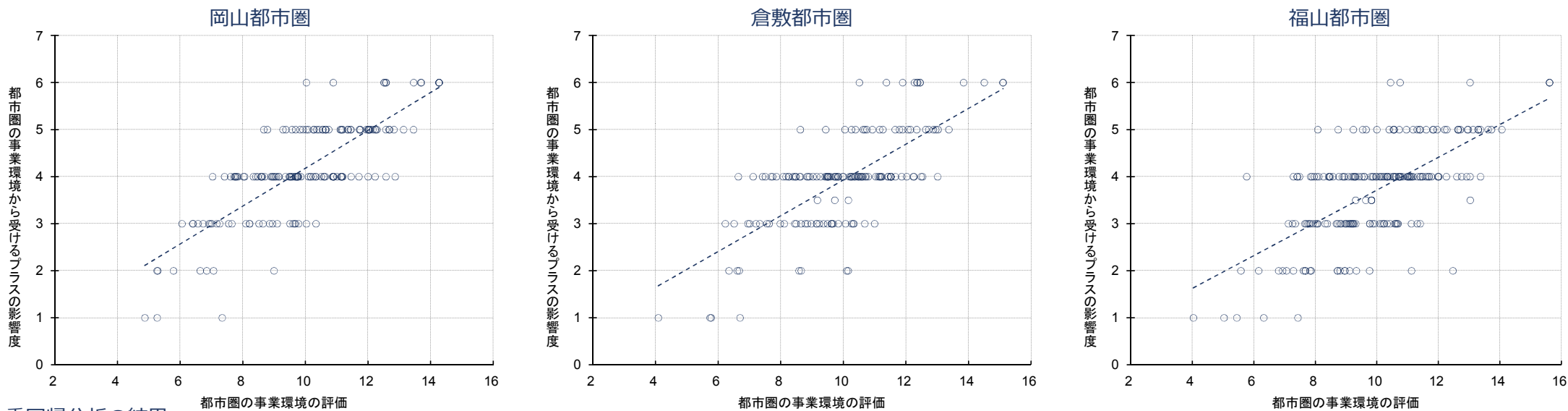
地域意識

（注） 1. 指標の合成方法は、点数化された事業所の回答に対して主成分分析を行って第一主成分の主成分得点を採用した
 2. 図は主成分得点に10点を加えた（事業所の平均値が10点）

都市圏の環境が企業の事業に影響するか（非集計分析）

- 立地都市圏の事業環境の評価と事業への影響度について個々の事業所の回答を用いて分析すると、いずれの都市圏でも事業環境が企業の事業に影響を与えていることは明らかである（事業環境の評価が高いほどその影響が事業に反映されている）（P値が十分に小さい）。
- 都市圏の環境と事業への影響の関係は、岡山、倉敷、福山の順で明確である（決定係数の比較、グラフの点の分布がより直線に近い）。また、岡山では、企業間関係よりも立地環境の方が事業への影響力が相対的に高く、倉敷、福山では、岡山に比べ企業関係の方が影響力が大きい（標準偏回帰係数の比較）。

図24 都市圏の事業環境から受けるプラスの影響度を説明する回帰分析



重回帰分析の結果

| 変数 | 偏回帰係数 | 標準偏回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|-------|---------|---------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 企業間関係 | 0.1442 | 0.2227 | 0.0717 | 0.2168 | 0.0001 | ** |
| 立地環境 | 0.4250 | 0.6589 | 0.3528 | 0.4973 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | -1.5136 | | 4.0878 | 4.2705 | 0.0000 | ** |

決定係数 = 0.62

| 変数 | 偏回帰係数 | 標準偏回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|-------|---------|---------|---------------|---------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 企業間関係 | 0.2331 | 0.3767 | 0.1617 | 0.3044 | 0.0000 | ** |
| 立地環境 | 0.3244 | 0.4986 | 0.2493 | 0.3994 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | -1.6448 | | -2.4695 | -0.8202 | 0.0001 | ** |

決定係数 = 0.57

| 変数 | 偏回帰係数 | 標準偏回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|-------|---------|---------|---------------|---------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 企業間関係 | 0.1961 | 0.3040 | 0.1221 | 0.2701 | 0.0000 | ** |
| 立地環境 | 0.2995 | 0.4733 | 0.2270 | 0.3721 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | -1.2434 | | -2.0163 | -0.4704 | 0.0017 | ** |

決定係数 = 0.44

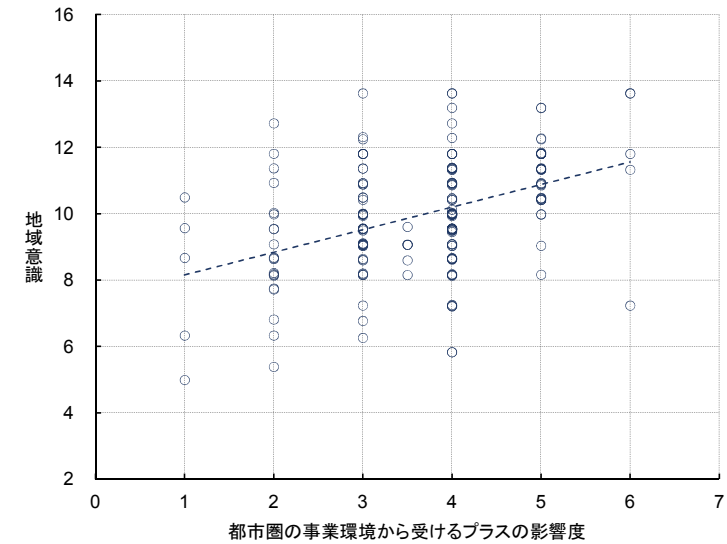
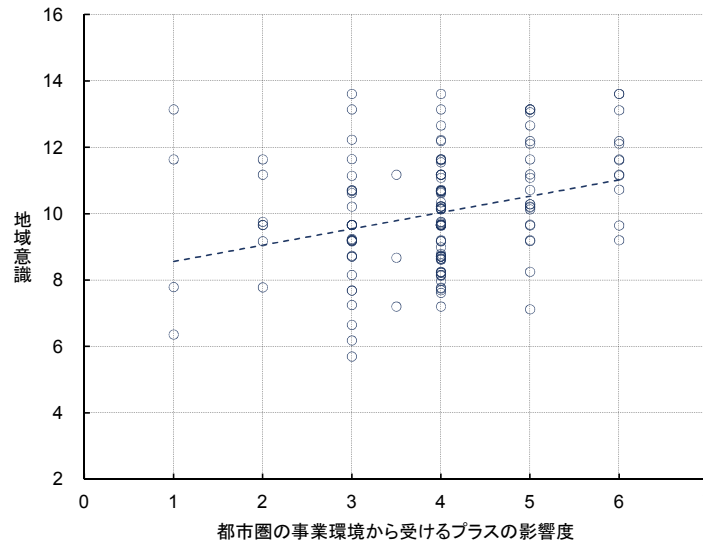
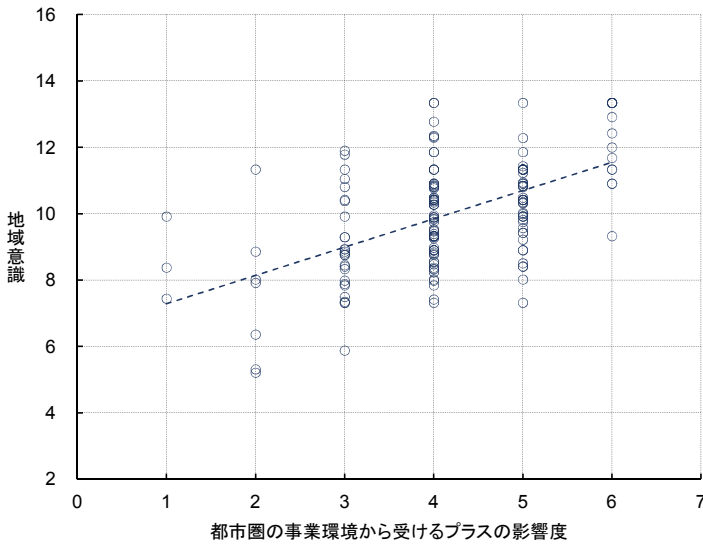
事業環境からプラスの影響を受けている事業所ほど地域意識が高いか（非集計分析）

- 都市圏の事業環境からプラスの影響を受けている事業所ほど地域意識が高いという関係が事業所単位で成立するかどうかを分析するため、質問を行った四つの地域意識に対する回答を合成して新指標「地域意識」を作成した。
- 回帰分析の結果、都市圏の事業環境からプラスの影響を受けている事業所ほど地域意識が高いという関係があることが、緩やかであるものの確認できる。

図25 地域意識を説明する重回帰分析
倉敷都市圏

岡山都市圏

福山都市圏



回帰分析の結果

| 変数 | 回帰係数 | 標準回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|----------|--------|--------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 事業環境の影響度 | 0.8520 | 0.5433 | 0.6533 | 1.0507 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | 6.4393 | | 5.5832 | 7.2955 | 0.0000 | ** |

決定係数=0.29

| 変数 | 回帰係数 | 標準回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|----------|--------|--------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 事業環境の影響度 | 0.4922 | 0.3058 | 0.2537 | 0.7307 | 0.0001 | ** |
| 定数項 | 8.0660 | | 7.0981 | 9.0339 | 0.0000 | ** |

決定係数=0.09

| 変数 | 回帰係数 | 標準回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|----------|--------|--------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 事業環境の影響度 | 0.6818 | 0.4253 | 0.4830 | 0.8806 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | 7.4684 | | 6.7025 | 8.2343 | 0.0000 | ** |

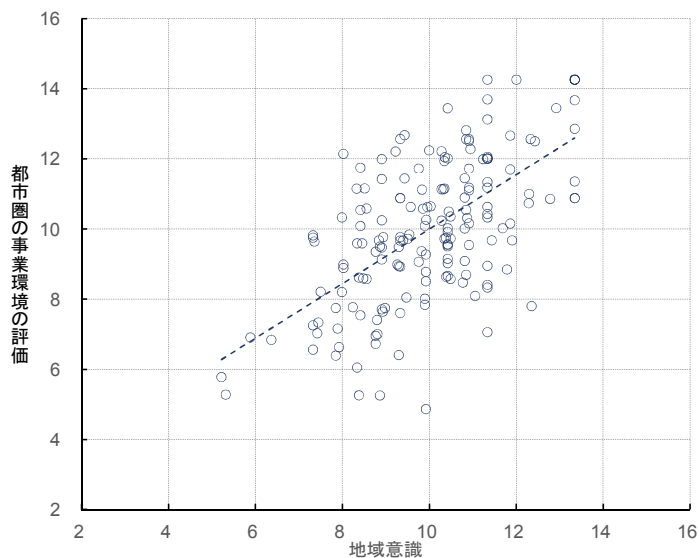
決定係数=0.18

地域意識が高い企業ほど都市圏の事業環境の評価が高いか（非集計分析）

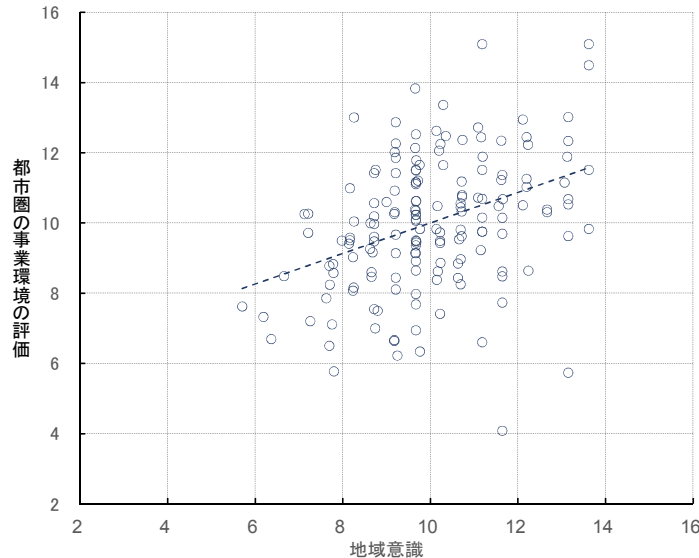
- 地域意識の高さが、都市圏の事業環境の形成にフィードバックするかどうかを調べるため、都市圏の事業環境の合成指標に対して同じく合成指標である「地域意識」による回帰分析を行った。
- 分析の結果、地域意識が高いほど事業所ほど都市圏の事業環境を評価しているという関係が、緩やかであるものの確認できる。この関係は倉敷、福山に比べて岡山で強い。

図26 都市圏の事業環境の評価と地域意識の関係を分析する回帰分析

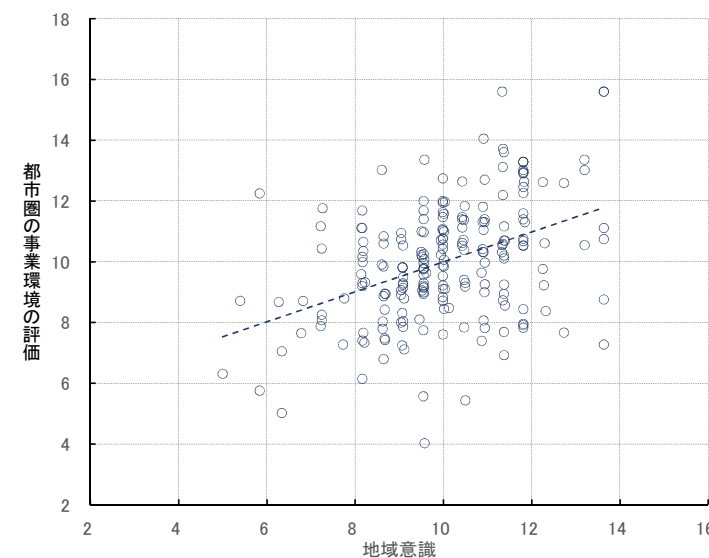
岡山都市圏



倉敷都市圏



福山都市圏



回帰分析の結果

| 変数 | 回帰係数 | 標準回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|----------|--------|--------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 事業環境の影響度 | 0.7771 | 0.6166 | 0.6273 | 0.9269 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | 2.2288 | | 0.7110 | 3.7467 | 0.0042 | ** |

決定係数=0.38

| 変数 | 回帰係数 | 標準回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|----------|--------|--------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 事業環境の影響度 | 0.4347 | 0.3756 | 0.2677 | 0.6017 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | 5.6530 | | 3.9613 | 7.3447 | 0.0000 | ** |

決定係数=0.14

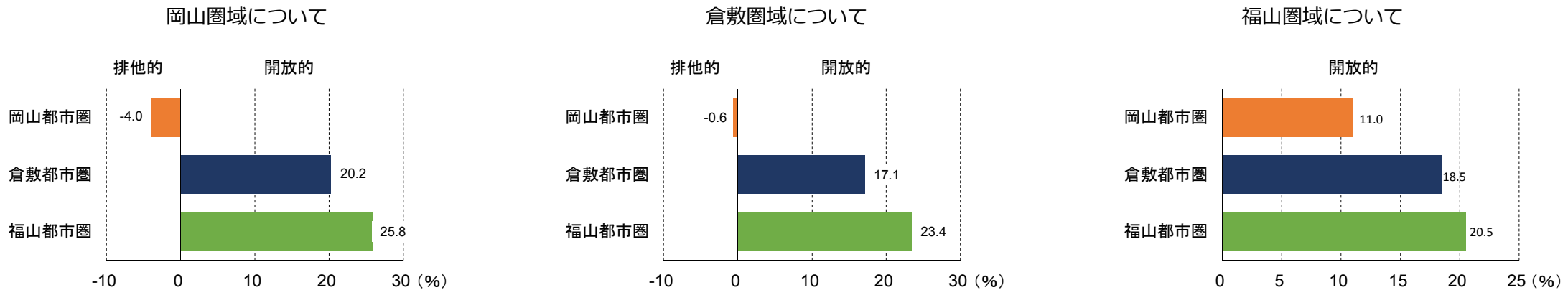
| 変数 | 回帰係数 | 標準回帰係数 | 偏回帰係数の95%信頼区間 | | 有意性の検定 | 判定 |
|----------|--------|--------|---------------|--------|--------|----|
| | | | 下限値 | 上限値 | P値 | |
| 事業環境の影響度 | 0.4923 | 0.4169 | 0.3452 | 0.6394 | 0.0000 | ** |
| 定数項 | 5.0770 | | 3.5862 | 6.5677 | 0.0000 | ** |

決定係数=0.17

都市圏の「地元意識」

- 参考として、各都市圏の事業所に、立地都市圏を含め三つの都市圏の事業所が有する「**地元意識※**」について尋ねた。「開放的である」という意見に賛同する回答から「排他的である」という意見に賛同する回答を差し引いて分析を行った。
- 結果、**岡山の自都市圏に対する評価と、同じく岡山の倉敷に対する評価だけがマイナス**である(排他的が開放的を上回る)。岡山の福山に対する評価はプラスであるものの、倉敷や福山の事業所による評価に対してポイントが小さい。岡山の事業所の評価は他の都市圏に比べて総じて厳しい(あるいは否定的である)ことが特徴である。
- 評価される方からみると、**福山都市圏の事業所に対する評価は、評価が厳しい岡山を含めどの都市圏においてもプラス**になっている。

図18 都市圏の「地元意識」について（開放的－排他的、単数回答、）



(注) 図中の数値は「域外企業に対しても開放的であり、域外との連携・交流に積極的な雰囲気がある」に対して「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した事業所の合計から、「むしろ、排他的な『地元意識』を地域の産業・企業に感じる」に対して「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した事業所の合計を差し引いたもの

※本調査で「地元意識」とは、同じ地域内の人々や企業の間には生じる連帯感や特定地域への帰属感を示し、これらが昂じて強い仲間意識や縄張り意識を生じることであると捉えている